

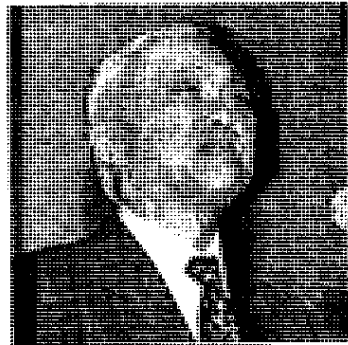
「地方活性化への提言」

—地方都市の機能と自立力の向上を目指して—

経済同友会前地方活性化委員長

秩父セメント(株)会長 諸 井 虔

ご紹介をいただきました諸井でございます。今日はこの研究集会にお招きをいただきまして、大変光栄に存じております。いまご説明がありましたように、東京の経済同友会で地方活性化委員長というのをやっております、それで地方活性化についての提言を、昨年の12月に提出をしたわけでございます。今から見ると1年近く経っているわけですが、わりと将来を眺めた提言ですから、そう陳腐化してはいないと思います。今日はこの提言を中心に話をしろという事ではないかと存じますので、これから1時間程お話をさせていただきます。



1. 大都市集中と地方分散

地方の問題というのはなかなか扱うのが難しく、非常に多くの問題を抱えていますので、どういう切り口あるいはどういう視点からこれを扱っていくかというのに悩まされるわけです。この活性化委員会の第1回の会合の時に、ある委員の方から「東京都というのは一体地方なんですか中央なんですか」という質問が出ました。皆は愕然としたわけでございます。考えてみれば、中央集権と地方分権という権限の面から見れば、東京都と言えども自治体でしてこれは地方になるわけです。それから一極集中と地方分散という切り口から見れば、これはまさに一極のど真ん中にあるという事になろうかと思っています。それからそれ以外にも、東京に限らず全国で都市集中現象というのが起こっています。こういうように片方で都市に集中する、そして郡部はどんどん過疎になっていくという事です。例えば鹿児島県辺りでも県の人口は流出をしてだんだん減ってきますが、鹿児島市自体の人口はだんだん膨らんでいきます。こういう現象が全国各地で起こっているわけでございます。これはそれぞれ違う問題でして、しかもお互いに関連が深い問題です。この問題をこれからどこを中心に議論して行こうかという事になったわけで

す。

そこで考えましたのが、やはり一番多い大きな問題というのは一極集中という事ではないだろうかと思います。ですから一極集中を排除して、地方分散を図って、地方を活性化していくという事が最優先の課題ではないでしょうか。実は私は今、行革審をやっています、そこでも地方分権の問題なども非常に大きなテーマで出てくるわけでございます。地方分権は勿論大変大事な事でございます。しかし地方分権の為に地方分散をやるのではなくて、多分、地方分散や地方活性化の為に地方分権をやるのだらうというふうに思うわけです。それからもう一つは、都市集中現象というのがあり、これは郡部が非常に過疎になっているという事を意味します。私がセメントの仕事をしています埼玉県秩父市、これは本当に東京都の隣でございます。その秩父市の人口は約5万人位で、これはもうずっと横這いでございます。そしてその周辺の町村はどんどん過疎になって、勿論山林や田畑を耕す人も減って来るし、町の役場に勤める人もなくなってくる、地方議員や町長になる人までだんだんいなくなってくるという現象を起こしているわけで、どう考えてもこの町村がそのまま立ち行くとは思えません。秩父市と合併したとしてもなかなかそれだけでは将来の見込みがないのではないかという事です。こういう都市集中と郡部の過疎という問題は、実は東京都の中にでもあるわけです。これは全国にみられる問題ですが、これについても地方の過疎というのはよくないから人口を地方を押し戻そう、都市集中はよくないというふうな視点で扱う事ができるかという、私はそれは今の社会情勢の中では不可能であると思います。むしろ都市というものを如何に良くしていくかということで、一極集中を防いで行くという考え方をとるべきではないかというふうに思いまして、委員会の議論というのは大体そういう方向へ向かって流れていったわけでございます。

2. 地方分散の必要性

① 住宅問題

ではその次に一体地方分散というのは、日本の社会全体にとってどういう意味があるのかという事を一応考えてみたわけです。戦後48年経っていますが、その間日本は非常に経済成長を遂げて今日の繁栄を見ているわけですが、これは効率化というものによってそれが成功してきたわけです。日本的経営というものもそれに絡んでいるのだらうと思います。効率化によって飛躍的な経済成長を図って、今日の繁栄を見たわけですが、いま残っている日本の社会の課題というものを考えてみますと、例えば広くて近くて安い住宅というものが欠如しているという事、あるいは内外価格差で非常に物価の高い分野が多い事、あるいは老後の安心というものが不十分であるという事、それから環境がだんだん悪くなってきています。その他にもあろうかと思いますが、こういう課題が残っているわけです。ではこういう課題は一体何で残ってしまったのかと考えてみますと、

これはそれぞれ効率を上げて、経済成長を図って行くというプロセスでは、解決しない問題ばかりです。効率を上げるという事を中心に考えていけば、どうしても一極集中になってしまいます。官庁は勿論ですし、会社の本社も皆どんどん東京へ引っ越して、そこで大きな本社ビルを建てて、社員が皆そこに集中して効率を上げるという方向に、どうしても行ってしまうという事になります。そういう一極集中が行われれば、どうしても人口がそこに集まってくるわけですから、土地が足りなくなるのは当たり前の事で、そうなれば需給の関係で、地価がどんどん上がっていくのは目に見えているわけです。そうすれば広くて近い家などというものは殆ど手に入らなくなって、現在三大都市圏の貸家の平均面積というのは40平米位です。そういう狭い家で、しかも通勤時間が1時間半とか2時間とかいうのがざらになってきてしまっているわけです。ですから広くて近い家というのはどんどん遠くなってしまって、効率を上げて成長を図ろうという事になると、そういうものは逆にどんどん遠のいてしまうという事になるわけです。

② 内外価格差の問題

それから内外価格差の問題等も、本当は集中をしますと、そこで効率が上がって物価が下がっていい筈なわけですが、これも度を過ぎて集中をしてしまいますと、物価がむしろ上がってしまうということが、現に大都市では起こっているわけです。それでこの内外価格差の激しい物は何かというのを色々調べてみますと、結局その原因になっているのは、土地の値段である地価と人件費の高さ、そして過密というような問題で、効率が上がらないような面があるというふうな事が浮かび上がってくるわけです。土地が高ければ店舗の地代にしても、あるいはそれを買えば金利が掛かるわけですし、あるいは倉庫であれ車庫であれ何であれ、土地が高ければそのコストへの跳ね返りというのは非常に大きくなるわけです。それからやはり東京あたりの人件費というのは相当高いわけですから、ここで人を雇えば当然コストが上がってきます。それから今のような過密状態で交通が非常に渋滞していますが、そんな中でトラックが行ったり来たりすれば益々渋滞するし、そのコストは益々上がってくるというふうな事になっていくわけです。食料品とかあるいは流通の関連とかあるいは不動産に絡んだ問題というのが、大体内外価格差の大きい分野には見えるわけですし、結局その集中も過度に行くと逆に効率が悪くなっていくという事、これも地方分散をして行かないとなかなか解決しない問題ではないかと思えます。

③ 老後の安心という問題

それから老後の安心という問題があります。今までの日本の福祉政策というのは、主計局が予算を付けて病院をつくとか、あるいは老人の為に介護施設をつくとか、そしてまた予算を付けて人を雇って来て人件費を払ってやるというシステムであります。これではコストはどんどん上がってしまいます。これから高齢化が進んで高齢者の人口

の割合が増えてくれば、それだけコストはどんどん上がっていくわけですし、それを負担すべき若い年齢の方達の人口は減っていくわけですから、負担はますます上がっていきます。そこでこの高齢者福祉の問題ですが、これは高齢者福祉に限らず一般の福祉にも言える事かもしれませんが、予算を付けてお金で解決しようというのは限度があると思います。結局、自分でできる事はなるべく自分でやっていくという事、そしてまた自分ができる間は相互扶助の考え方で、ボランティアとしてなるべく困っている人を助けて行くという事、そして自分が動けなくなったら助けてもらうというふうな方向を折り込んでいかないと、高齢者の福祉や介護あるいは福祉全体の問題というのは解決しないのではないかという感じがするわけです。そうするとそういう相互扶助とか自助努力とか、そういうものの働くような組織というのはどういう事かと考えてみますと、やはりコミュニティがしっかりしていないとこれはできないと思います。東京のように隣は何をする人ぞという事で、隣に住んでいる人の顔も見ることがないというような社会では、こういうものは絶対に解決できないわけです。やはり地方に行きますと、私どもの工場のある秩父辺りでも、隣組のようなものが冠婚葬祭等あらゆる時に、お互いに助け合って生活をしているわけです。そういうコミュニティというのは、やはり地方に行くほどいい形で残っているという事ではないかと思います。コミュニティというものをこれから再構築していかないと、こういう福祉の問題は解決しないと思います。そうするとこの問題もやはり地方分散と関係が深いのではないかという形になってきます。

④ 環境問題

それから、今まで住宅問題それから内外価格差の問題そして老後の安心という問題を申し上げましたが、もう一つ言えば、やはりどうもこれから心配になってくるのは環境の問題であろうと思います。これも今や東京の環境というのは本当にひどいものでして、健康を悪くする為に東京にいるようなところがあります。これは地方に行けば空気もいいし景色もいいし太陽はさんさんと輝いて、これは住む環境としては東京と比べ物にならない条件を持っているわけです。ですからやはりこれも人口が少しずつ分散をして、集中を排除していくという方向でないと解決しない問題だと思います。

これらは何れも経済成長を一生懸命やって行こうとすると悪くなる一方の問題で、経済成長ではどうしても解決のできない問題ばかりで、それが今残っているという事です。それが残っている為に世界でG N Pが第2位というふうに言ってみても、生活の中身は欧米に比べるとずっと落ちてしまうのではないだろうかという事です。そこに日本の国民の不満があるわけですし、ゆとりと豊かさの生活という生活大国の経済計画がありますが、とてもそのゆとりや豊かさにはほど遠いという状況にあるわけです。これは地方に行くほど改善をされているという事ではないかと思います。要するに戦後、戦争によってすっかり崩壊してしまった経済を建て直して、復興して経済成長してさらに高度成長して、先進国に追いつけ追い越せと頑張ってやってきました。これはこれで成功した事

は間違いないのですが、このシナリオで解決できない問題が今残っていて、それは今までと同じ事をやっていたのでは、いつまでたっても解決しないという事です。その内に21世紀になって、高齢化時代が到来すると、この問題というのは結局永久に解決しないままに、日本の経済生活というのは現在の水準を最高として、そのままむしろ衰退をしていくという話に成りかねないわけです。ですから今は非常に大事な時期でして、その間に一極集中から地方分散に向かって徐々に進んでいくという事をやっておかないと、これは永久にチャンスを失うという事ではないかと思ったわけであります。

3. 大都市集中のインセンティブ

その次に、それでは地方地方というけれども、一体どんなイメージの地方を考えるのかという事が出てきます。先程も少し触れましたように、今起こっている都市化の現象というのは、これは避けられないという事です。これは必ずしも効率とか経済成長とかいう事の為に都市化が起こっているとだけは言い切れないわけです。消費生活がご承知のように、だんだんソフトとかサービスとかいう方向に重点が移りつつあるわけです。それでソフトとかサービスとかいうものは、人口が集積して集まった所でないと、なかなか効率的な供給ができないわけです。ですから消費生活がだんだんソフトやサービスの方に重点を置くに従って、どうしても都市化の現象というのは起こっていくわけです。田舎の集落にいてやはり都会生活を味わう事は非常に難しいという事になってしまいますから、人口はだんだん都会に集まって来るという事です。そして就業機会も1次産業2次産業の就業機会というのはだんだん減って行って、3次産業の就業機会が増えてくるわけです。現在でも既に雇用の面で見ますと、3次産業が6割を超えてアメリカあたりですと7割になっているわけです。そういうふうになってきますと、やはり都会に住んでいる方が就業機会もあるし、またそういう高度のサービスを受けられるチャンスも多いという事になってきます。ですからどうしても都市集中現象というのは、今の社会では避けられないし、これからもどちらかと言うと進んで行くことになるのではないかと思います。

ソフトとかサービスと言っても中身はなかなか難しいのですが、やはりそれは情報の問題です。情報にはいろいろありますが、例えば今どんな洋服が流行っているのかという事も、若い人にとっては大事な情報だと思います。どんな音楽が流行っているとか、そういう事も含めて広い意味での情報という事だと思います。それから教育というのが非常に今ウエイトが高くなっています。家計費のなかでも教育費の比率というのは相当上がってきています。そういう教育のチャンスも大学や小中高等学校だけでなく塾の問題等も含めて、都会に行かないとなかなかいいサービスを受けられないという事です。それから健康問題も非常に大事になってきていますが、これも例えば病院の施設にしても、あるいはスポーツクラブ等のサービスにしても、やはり都会に行かないとうまくサー

ビスが受けられないという事です。あるいは文化などもまさにそうだと思いますし、音楽会とか美術展覧会とかいろんなものを、日本人も経済成長を果たした後だんだん楽しむ余裕が出てきて、ご婦人などもこういう問題に非常に興味をもっておられます。それから娯楽の問題があります。若い人がどうして東京へ行ってしまうのかというと、やはりディスコやショッピング等はどうも東京に行かないとなかなかいい物がないという事です。こういった娯楽の面でもいろんな幅広い多様な生活の楽しみ方をしているわけです。そういう物のウェイトが消費生活の中でどんどん高くなっているという事です。ですから、どうしても都市集中という現象は避けられないという事ではないかと思えます。

そうなりますと先程言いましたように、地方における都市生活というものを如何に充実していくかという事が、地方からの人口流出を押さえ、逆に地方へ人口を流入させるための決め手になってくるのではないかというふうに考えていったわけです。そこで東京にあって地方にない物というものを、やはり良く考えて、実は地方にあって東京にない物はすぐに分かるわけですが、何故そんなに地方にいい物が、自然環境にしても人情にしてもまた食べ物も本当にたくさんあるわけですが、それでも何故東京に集まってくるのかというと、それはやはり地方になくて東京にある物の魅力に引かれているという事になるかと思えます。それは就業機会とか情報とか教育とかいろんな問題であろうかと思えますが、そういう物をいかに充実させていくかという事が、やはり地方分散あるいは一極集中排除という事のポイントになるだろうというふうに考えてきたわけです。

4. 中山間部の問題と対策

そこで一つ先程も言いましたが、郡部の過疎という問題が残るわけです。これは実は私は農水省の「新農政懇談会」というのに入れていただきまして、いろいろ議論をしたわけです。農水省用語で言いますと、中山間部、これは山間部と中間部を一緒にした言葉だと思いますが、山の上の森林業をやっている山林の部分から、段々畑がずっとあってそれから平地の広い水田地帯に移ってきますが、その山間部と中間部という事です。この中山間部をどうするかというのは大変難しい問題です。ちょっと脱線しますが、今ウルグアイラウンドの問題が大分クローズアップされていますが、日本の農業の問題というのは、米を例にとって考えますと、平地の部分で30～40町歩を一世帯夫婦二人で耕すというふうに持って行けば、コストは3分の1にも4分の1にもなります。米のコストを調べてみますと、その大部分が人件費と農機具の金利償却になるわけです。ですから同じ人員で同じ農機具を使って、3倍も4倍も広い面積を耕せば、コストはものすごく下がる事は目に見えているわけです。それでそういう農地の集積が行われるようになれば、日本の農業問題というのはほとんど解決するのではないかと思います。もちろん全くの自由競争では敵わないかもしれませんが、欧米並の普通の関税で5年10年後には

十分太刀打ちできると思います。優秀な日本人がやるわけですから、そこにいろんな技術的な改良も加えられるでしょうし、更に消費者のいろんな嗜好もあるわけですから、私はこれで問題は解決すると思います。それから都市周辺の農家というのは、実は大変な資産家でして、基本的には保護しなければならないという問題ではないだろうと思います。

残るのはやはり中山間部になります。これは農業政策で今までは何とかカバーしようとして来ました。そうすると段々畑の農家が食べていけるような、そういう米の値段を設定しようと思うと、これは大変高いものになってしまいます。あの部分というのは簡単に集約化できない部分です。農水省でも申し上げたのですが、中山間部の問題は農業政策とか林業政策でカバーしようと思っても無理だという事です。ですからこの分野というのは治山治水の国土政策とか、あるいは過疎地における福祉をどうしたらいいか、同じ国民ですからナショナルミニマムで彼らも同じように福祉を受ける権利があります。あるいは自治体行政をどうするかとか、そういうものと全部組み合わせにして中山間地域の問題を解決していくしかありません。多分ある程度、集落も集約して少し山から下りていただくような事も考えなければいけないのかもしれませんが。そうして集落を集約しながら、そこに多少やはり財政的にもお金を突っ込んでいかなければなりません。それを農業政策で全部やろうと思うと、いつまでたっても兼業農家が専業農家に農地を渡さないという事になってしまいます。そういう方向で考えるしかないと思います。ですから中山間部というのは、ある程度そういうふうに補助を与えながら、対応していくしかないわけです。

秩父市の周辺の例を申しても、多分解決の方法というのは、最初は秩父市を中心に各市町村を合併をして、更にそれを広域化して、大体人口規模でいくと20～30万の、相当広い広域の田園都市のようなものを作って、その都市が相当の補助を国からも受けながら、その地域の問題を処理していくというふうな方向を辿らざるを得ないのではないかと思います。しかも、そこに住んでいる人達も、何かしら都市生活というものをエンジョイするチャンスがないといけないと思います。ですからそういう地域の交通のネットワークというものは、やはりしっかり作っていかなければと思います。できれば集約化された集落から、1時間程車をとばして行けば都市生活をエンジョイできるという事、逆に言えば都市に住んでいて、そういう地域に行って農業をやるという事もできるというような形に展開をしていくしかないのではと考えたわけです。要するに、郡部が過疎になっではいけないと言って、人口を押し返すのではなく、都市集中現象はある程度受け入れながら、そういう中山間部に関しても、都市生活を一部であつてもエンジョイできるというような形に持っていくという事です。そういう形でバランスを取っていくしかないのではないかと考えたわけです。

5. 地方における中枢・中核都市の役割

そしてその次に出てきますのは、言わば拠点都市とか中核都市とか県庁所在地とか、そういう分野だろうと思います。先程も申し上げたように、そういう過疎の郡部についても人口30万位でまとめていくという事です。当然、中核都市とか拠点都市とかいう事になりますと、30万前後が標準になっていくだろうと思います。これは地方によって状況が違いますから一概には言えないわけですが、そういう都市を整備していくという事です。今までですとそういう中核都市なり拠点都市を整備する時に、全国画一的に国土庁か建設省あたりで考えたパターンにはめ込んでいって、全国に画一的なそういう中核都市や拠点都市を作っていくという事です。これではやはり地方の発展はないのではないのでしょうか。それぞれの中核都市や拠点都市には、自然条件やあるいはそれぞれの歴史も文化もあるわけですし、そこに住んでいる人のアイデンティティがあるわけですから、このアイデンティティをなるべく生かした都市づくりを考えていくという事、そして隣同志の町であっても、お互いにそこに特徴があって、隣の町に行けばその隣の町の面白さというものをエンジョイでき、また自分の所になくとも隣の町にはある、あるいはもう少し先に行けばその町にはあるという事です。先程の情報とか教育とか健康とかのいろんな問題をお互いに補完しあって、その道路交通や情報通信のネットワークをしっかりと作って、それを相互補完的にできるようにしていくというのが方向ではないだろうかと思います。そうやって来ると、そのブロック全体の中での中枢都市というのが非常に重要になってくるわけで、その中枢都市に行けば東京並のいろんなサービスやソフトがエンジョイできるという事です。もちろん東京のように大きくなってしまったのでは、先程言ったような弊害ができるわけですから、人口規模が100万がいいのか200万がいいのかわかりませんが、ある程度の人口集積がそこにあり、いろんな機能がほぼワンセットでハイレベルで整っていて、そこに行けば何も東京に行かなくても、いろんなものを教育も含めて享受できるという事です。そういう形に作り上げていくという事が、このブロック全体というものをよくしていく、非常に重要なポイントではないかという事です。この辺で今日の共通テーマとお話の接点が出てくるのかもしれませんが。

6. 地方中枢都市と都市計画

ではその場合に一つ考えておかなければいけないのは、今の中核都市が自然のままにこれからやって行けばいいのかというと、必ずしもそうではないと思います。東京の方からだんだん分散して入ってくる人の受け皿にもならなくてはいけないし、地方からだんだん集中してくる人の受け皿にもならなくてははいけません。そうすると現在のままの姿で果していいのかどうか、私はやはり周辺の農地というものを都市に編入して、少し都市を拡大してそこをしっかりとゾーニングして、文教地域であるとか住宅地域であると

か工業地域であるとか、そこに公共投資を相当重点的に注入していくという事です。少し先まで見た都市づくりを、今から考えていくという事です。そこでその都市計画というのが非常に重要になってくるのではないかと思います。私は日本の場合はゾーニングが非常にいい加減で、住宅地域とか商業地域とかを一度決めていても、住宅地域にどんどん商店が入って来ると、暫くすると地域指定を変えてしまうという事をしょっちゅうやるわけです。本来は住居地域と商業地域というのは、地価が違っていいはずなんです。住宅地域とはっきり決まっています、ここでは商業は出来ないとすれば、住宅地域並の地価になるわけです。いつか商業地域に変わるかもしれないという、住宅地域と商業地域の地価がいつも交錯して、結局は高い方についていってしまうという事になります。この辺は欧米ではかなり厳格にやっています。どちらがいいかという議論はあると思いますが、やはり今までの実績を見てみると、日本のやり方が良いと言い切れない感じがします。それではそういうゾーニングや公共投資を含めた都市計画というものを確立していくという事です。私は本当はこれは住民投票にかけて3分の2の同意を得たら、ある程度強制的に実行していくべきだと思います。反対の方があっても、公共の福祉の為に、ある程度は辛抱していただくという事です。強制収用とかいうような事は法律では決まっていますが、政治家の方が政治的な配慮でなかなか決断できないという事です。その間にどんどん時間が経って、金利が金利を生んでプロジェクトのコストがものすごく上がっていくという事になります。折角、殆ど9分9厘出来上がりかかった物が、使えないで何年も放置されるという、公共全体に取っては非常にマイナスな事でロスが多いわけです。これはやはり社会生活をする以上、個人の意見も大事かもしれませんが、ある程度は社会全体というものに優先順位を置いていかないと、国家主義とかいうのとは違って、社会の皆の大勢の意見というものを尊重してやっていきたいと思います、社会生活というのは成り立たないわけです。ですからそういうような面もこれから考えていかなければなりません。

こが県庁所在地になるのかという事で、そんな争いが常に絶えません。要するに地方同志で俺が俺がと言って足を引っ張り合う為に、地方の発展が妨げられるというケースが、いろんな分野でたくさんあるのではないかと思います。これはやはりもう少し大きな目でやって行かないといけないと思いますし、特に政治家の方が、これは中央の政治家もそうですが、地方の知事とか県議員とか市議員とか市長とか、そういう方々がもっと大きな目で、地方全体の発展を考えながらやっていかれないと、非常にロスの多い事になってしまうのではないかという感じがするわけです。

7. 地方分散とジャパニーズドリームの実現

この中枢都市のイメージというのは、この後のパネルディスカッションで、それぞれ札幌・仙台・福岡・広島の方々と具体的なお議論をされると思いますが、私どもの方は必ずしもそのイメージが明確にあるわけではありませんで、理屈の世界の話になると思います。問題は、一体どうやってそういう地方分散を実行するのか、また実現するのかという事だと思います。これが実は一番難しい問題で、そこがうまく行かなかったというのが、今日までの姿ではないかと思っています。私は実は先日も総理とお目に掛かって申し上げたのですが、戦争が終わった後高度成長でGNP世界第2位というところまで持ってきたということ、これは戦後の日本の夢であり将来像であり、それを我々は実現をしてきたわけです。実現をしてきたけれどもそれでは不十分であるという事が、今明確になってきたわけです。そうすると今足りないものを更に実現をして、そして本当の意味での日本の夢というものを果して行くという事、ジャパニーズドリームというものを実現していくという事です。それでは日本の将来像はどうなんだという事を政治が提言して、先程と同じように国民の3分の2以上の支持を受けて、そして今度は合意を得た以上は多少のトラブルはあっても、強力になるべく早く実現をしていく事が大事ではないのか、というふうに申し上げたわけです。

先程来申しておりますように、日本で欠けているものを実現するには、やはり一極集中というものを押さえて地方分散をしていくという事、そしてその地方の都市を中枢都市・中核都市そして広域都市というようなものを整備して、その間のアクセスをよくしてネットワークを素晴らしくしていくという事。東京とのネットワークも勿論大事だと思います。いい人材が地方に行かない理由として、東京に行かないとフェイスTOフェイスの情報交換ができないという事が言われます。もしドアTOドアで短時間で東京に行けるとしたら、そしてそのコスト（運賃）もそんなに高くないという事になれば、この問題も解消するわけです。ですからやはり東京とのアクセスも大事だと思いますが、何れにしてもそういう都市のネットワークで、今欠けているものを実現をして、日本のジャパニーズドリームというものを成功させていくというのが、今の時代には一番大事な事ではないかと思っています。その為にはやはり地方分散を国是とするような、そういう提案

を政治の方からやって、国民の世論の支持を得るべきではないかという事を申し上げたわけです。

これは実は、今の景気対策とも絡みのある問題でして、現在景気が非常に落ち込んでいます。どうもなかなか打つ手がないというか、あるいは今までのような公共投資を増やすとか金利を下げるとか、あるいは企業にしてみればリストラをやるとか、こういうふうな事をいくらやっても景気に向いて来ない。下支えにはなって底割れを防ぐ事にはなっているのですが、景気が浮上していくという効果がありません。この調子ではおそらく所得税減税をやっても、それだけでは景気浮上の効果は出てこないのではないかと思います。それは結局、消費需要がどうもすっかり冷え込んでしまっているというのが原因だろうと思います。それが出てこなければ設備投資だって出てこないわけですから。それじゃ一体日本の国民は、今の生活に完全に満足してしまって、買換えだけでいいと思っているのだろうかという、そんな事は絶対にはないのではないかと思います。先程申し上げた、住宅の問題にしても、物価の問題にしても、老後の問題にしても、環境の問題にしても、日本の国民はまだまだ欲しい物が一杯あります。一杯あるのだけれども、欲しくてもそれが手に入らない。入らないから需要が冷え込んでいるわけです。ですからそれを何とか手に入るようにするしかないじゃないか。それが地方分散によって果たせると言うのであれば、地方分散に向けて全ての政策を結集すべきではないかという事です。税制もそうです。やはり地方分散の方向にとってインセンティブに働くような税制を考えるべきだと思います。それから公共投資もそうです。それに役立つような形の公共投資に重点を置くべきだと思います。それから補助金などもそうだと思います。それから規制、これも一方では規制をし、一方では規制を緩和あるいは撤廃をして、地方分散がどんどん進むような方向へ持って行かなければいけないという事だと思います。それでしっかりした国土計画を立て、それぞれの地域では地域計画や都市計画をしっかり立てると言う事です。この都市計画なども、今迄ですと中央官庁の口出しが非常に激しく、しかもそれを一つの省庁で続けているのではなく、各省庁が皆自分たちの立場からかけてきます。そうすると結果的には、皆似たような物しかできないし、またいつまで経ってもなかなかできないし、無駄が多いという事になるわけです。この都市計画をなるべく自分達の思うようにやらせて貰いたいというのは、積極的な地方の最も多い願望です。この規制に関してお聞きすると、そこが一番問題だと言われます。そういうものもどんどん変えていくというような形で、地方分散を図り、住宅の改善を図り、あるいは物価も解決し老後も解決していくという事、それがこれからのジャパン・ドリームだという事を、政治が打ち出していく事が、一番大事ではないかと総理にも申し上げたわけです。

8. 首都機能の地方分散

今私はもう一つ首都移転の問題で、「国会等移転調査会」という会のメンバーをやらせてもらっています。私のイメージは、この首都の機能の中で国会とか中央官庁の一部は、なるべく早くコンパクトに移した方がいいと思います。今もし東京で大きな災害が起こったら、日本全体の統括機能がなくなって、非常に危険な状態に落ち込むと思います。意志決定をする事ができなくなるわけですから、そういう意味でもなるべく早くコンパクトに移した方がいいと思います。その時のコンパクトにという意味は、中央省庁の権限を地方分権したり、あるいは官から民へという事で規制緩和をするという事でスリムにして、そして政治の国会のあり方というものもイギリスのように改善をして、それでどうしても必要なものに絞り込んだ上で移転をしたらいいのではないかと思います。そうすればそんなに時間もかからないし、そんなにお金もかからないし、取り合えずのそういう防災というのは果たせるのではないかと思います。その時に、例えば最高裁判所とか日銀とか、そういうものを全部新首都に持っていくというのが他の委員の方々のお考えですが、私はどうもそこは変えた方がいいのではないかと思います。これは例えばの話ですが、最高裁判所を仙台に持っていくとすると、東北大学の法学部というのはものすごく充実すると思います。日本の法律に関する最高の人達が、みんな仙台に集まるという事はできないだろうかという事です。それと同じように日本銀行もどこか東京以外の所に移してはどうか。あるいは科学技術庁とか特許庁とか、こういう科学技術センターのメッカというものもやはり東京以外の所に持って行った方がいいのではないかと。そこに皆一か所に集めないで、各ブロックの中核都市にそういうものを分散していくわけです。ドイツなどはそういうふうになっていて、それによって何でもかんでも首都東京というものに、全国の一番えらい人がいて一番最高の意志決定機関があるという事、それを少しばらばらにした方がいいのではないかと思います。新首都といっても、どうせ東京とそんなに遠くない所にできると思いますから、そこにまた全部一揃い持っていくと、結局東京の一部分が分都しただけの話になって、あんまりメリットは出ないのではないかと思います。その時にそういう最高機関というものも、分散を図って行くのがいいのではないかと、そういう事を考えているわけです。

9. 企業の地方分権化

それから最後にもう一つ、私が一番大事だと思うのは企業だと思います。先程申し上げたように、効率を追い求めた経済成長のプロセスで、企業は本社を全て東京に集中し、そうして効率を上げました。しかし、その事によって一極集中は益々激しくなって、そしてそれぞれの企業の社員は1～2時間をかけて通勤をしています。この通勤時間というものがばかにならなくて、1日に通勤時間を片道30分短くすれば、1日で1時間、年間

にして200時間以上の時短をやっただけの効果があります。ですからこの通勤時間というのも非常に大事なわけです。そして遠くて狭くて高い家に従業員は皆住んでいます。子供の通学も同じような事になってくるわけです。ですから会社としては効率は高いかもしれないけれども、従業員を含めた全体で考えてみると、効率はむしろマイナスになっています。ですから企業もどうしても東京あるいは新首都に置かなければならないものだけを置いて、そうでないものはなるべく地方に散らしていく方がいいと思います。それは衛星オフィスのような考え方とかを取っていけばいいのではないかと思います。そしてその間は、これから発達していく情報通信網というもので十分カバーできるはずですし、その事自体も地方分散に非常にメリットがあるわけですし、何よりも人材がどんどん地方に行くという事が大事だと思います。その上で企業自体も地方分権をやらなければいけないと思います。今ですと工場長とか支店長とかは皆東京の本社の方に向けていて、本社になるべく早く帰りたいという事で、その為には本社の意向になるべく従っていかなければならないというような事ばかり考えています。それでは折角地方にいても、心は東京に行っているわけですから、その人材は地方にとって生きないわけです。ですから地方の支店長なり工場長にもっと権限を与えて、いちいち本社にお伺いを立てなくても、そこできちんとやれるようにして行くという事です。人によっては、俺はこの地方の支店長なり工場長で終わろう、俺はこの地方における会社の最高の立場で決定権も持って人事も自分でやって、この地方の為に尽くそう、その事と会社を良くするという事を合致させるように考えられるようにして行く事が大事だと思います。ですからやはり役所のことばかり言っていないで、我々企業もそういう事を一生懸命考えて、少しでも実行して行くようにしなければいけないし、役所の方はそういう事にインセンティブを感じられるような、税制でも何でもそういうシステムを作っていっていいのではないかという感じがするわけです。そうやってそれこそ産官学が地方に分散して、そして新しい日本の夢というものを実現していくという方向を考えるべきではないかというのが私の結論です。

大変回りくどいお話をしましてお聞き辛かったかと思いますが、それにも関わらずご静聴いただきまして大変有り難うございました。以上で終わります。

札幌・仙台・広島・バージョン3

—地方中枢都市の役割と課題—

- 司 会 榎 本 功（広島大学経済学部附属地域経済研究センター長）
- 発 言 者 石 黒 直 文（北海道経済同友会常任幹事、
（株）たくぎん総合研究所会長）
- 藤 崎 三郎助（仙台経済同友会代表幹事、東北経済連合会副会長、
（株）藤崎会長）
- 森 本 弘 道（広島経済同友会代表幹事、中国経済連合会理事、
（株）広島総合銀行頭取）
- 石 井 幸 孝（（社）九州・山口経済連合会都市問題委員長、
福岡経済同友会幹事、九州旅客鉄道（株）社長）
- 助 言 者 諸 井 虔（（社）経済同友会前地方活性化委員会委員長、
秩父セメント（株）会長）



1. はじめに

樺本：地域経済研究センターの樺本でございます。先程は諸井会長さんにご大変有益なお話を賜りました。「札仙広福」というテーマで、何回か当広島で会議をやらせていただきましたが、地方の人達が、「札仙広福」とか「地方の問題」を論ずるのは自然なことです、中央からも同じように、地方の重要性を分かりやすい表現でお話を賜り、且ついろいろな積極的なご提言を賜ったことは、大変ありがたく深く感謝申し上げる次第でございます。それを受けまして、これから札仙広福からお見え頂きました方々のご討論を賜りたいと存じます。



樺本 功 氏

その前に札仙広福に関する経緯をご説明いたします。今回、バージョン3と言っていますが、実は私どものセンターが主催した札仙広福の会議は3回目でございますが、それに加えて当地域の中国新聞が同じ札仙広福というテーマで、一度シンポジウムをやらせて、私もそこでコーディネートさせていただきましたので、結局今回が4回目ということになります。いちばん最初が平成3年で、私どものセンター主催で、もちろん協議会も一緒なんです、学者先生ばかり札仙広福からお呼びいたしました。札幌からは北海道大学の五十嵐教授、仙台からは西澤潤一東北大学長、福岡からは九州大学の矢田教授にお出ましました。この3人の方々はそれぞれの地域で大変な論陣を張られておりますオピニオンリーダーでございますし、言わば口から先に生まれたような方ばかりです。こういう方ばかりですから、話は面白いし議論は活発になりますが、広島からは少しおとなしくて、優しく、気の小さいの出そうということで、広島から私が出させて頂きました。

その学者先生ばかりが第1回目で、2回目が先程の中国新聞社の主催で、4市の市長さんにお出ましました。平岡広島市長さんはもとより今話題の石井仙台市長もここでお話を賜ったわけでございます。3回目は、地元の4つの新聞社、北海道新聞社、河北新報社、中国新聞社、西日本新聞社の4社がそれぞれ同じ意識をお持ちでして、共同で連載の編集をなさしまして、何日間か続けて4紙とも共同で紙面を作成されました。ということもございまして、4紙の編集局長さん方ばかりにお集まりいただいたのが、事実上3回目でございます。私どものセンター主催で言えば2回目のバージョン2であったわけです。それから今日が4回目で、経済人の方ばかりにお話を賜ることになったわけでございます。多少、お立場も違いますから、積極的な意味での札仙広福のあり方と、そして課題・提言というものが承れるかご期待申し上げているところでございます。

時間は5時半までの2時間半でございます。各々2回位ご意見を賜りたいと存じますが、できますればフロアからのご質問なりご意見を賜りたいと思いますので、7～8分位でそれぞれの回を廻して貯金をしていただいてフロアからのご質問を賜って、議論を続けていただけるといいなと思います。一つよろしくご協力の程を申し上げます。

2回程廻るとしまして、その第1回目は現状、2回目は将来や提言ということになりますでしょうか。第1回目の現状については、例えばその地方のブロックの現状、札幌なら札幌の現状そして北海道と札幌の関係というのが、多分最初の話題になります。2回目が、さあしからばどうしたらいいかというお話を賜ればと思っております。勿論この4市はそれぞれ事情が違いますが、そうは言いながらもそれぞれのブロックの中核都市で、似たような性格も持っております。その辺で意見が一致したり違ったり、あるいはとくに喧嘩をしていただくと大変ありがたいと思っております。それでは最初の第1回ですが、現状を主としてお話を賜りたいと思います。順番も札幌仙田と申しておりますので、札幌の石黒さんの方から先ず第1声をお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。

2. 札幌からの報告：東京一極集中のとりえ方と社会意識の変化

石黒：札幌から参りました石黒です。お招きいただきましてありがとうございました。実は広島にお伺いしたのは14年振りだと思います。14年前に私どもの方で座談会を催した時に、その時の知事は宮沢弘さんという方でしたが、こちらへご出席のお願いをしに参りました。14年経って広島は全く変わってしまったと感じられますし、来年のアジア大会を控えて、非常に活気のある町だなと思います。樺本先生、景気もいいんでしょう。そのように感じました。札幌も実は20年前に、札幌オリンピック



石黒 直文 氏

というのがございまして、やはりああいうものが、札幌にとって物凄く大きなインパクトになったなという感じですから、おそらく来年のアジア大会の後、さらに広島が発展されるのではないかなというふうに思っています。又、午前中はカープの高橋常務さんとサンフレッチェの橋本専務さんにお会いしてきました。札幌交響楽団という自慢できるものがあり、文化面では割りに優れていると思いますが、スポーツは駄目なんですね。そういう意味で市民の方が中心になって、カープとかサンフレッチェとかいうふうな素晴らしいものをおつくりになっているのは、大変羨ましく思いまして、それが市民の手で作られているという事で、非常に感銘を受けてまいりました。

今日は、「地方中枢都市の役割と課題」というテーマで何か話をしろという事でありま

す。先程、諸井さんからお話がありましたように、東京一極集中というのが、いわば頂点に来てマチュリティ（maturity：成熟）に達して、このままではどうにもいけないぞという感じになっているというお話でした。私は前からそう思っていました、日本という国の名前は物凄くうまい名前を付けたものだなあと。日本というのは東京とそれ以外の二本立てだから日本というのかなと、実はこう思っておりましたし、それから日の丸の旗というのは誰が作ったかよく分かりませんが、あれも実にうまく作った旗でして、真ん中の所だけに血潮が通っていて、そして外側の四隅の方は真っ白で何にも手を付けていないと、あれも実にうまい旗を象徴的に作ったもんだなと、かねがね考えていました。しかしその事がやはり一つの大きな転換の時にきているなという感じは、率直に言って持っているわけです。

今、日本に百万を超える都市というのは12あると思います。それぞれ実は違うのですが、昔からある町、維新の前からあった町というのは、江戸・東京、大阪、京都、名古屋であったりするんだろうと思います。それからもう一つは、大都市の周辺の港という、実は海外からの情報の入手経路であった都市が2つ百万都市になっています。それは神戸と横浜であります。それからもう一つ、実は日本のこれまでの大重工業を中心にした町、この発展で百万都市になった都市が2つありまして、これは川崎と北九州だと思います。実は後の4つの札幌・広島・福岡というのは、ここにありますがように分類的に言うと、樺本先生は少し違った意見で地方中枢都市という分類をされているようですが、逆の意味から言いますと、地方中枢ということで百万都市という事になった一つの大きな意義として、この4つの都市があるのではないかという気がするわけです。この4つの都市は実はこの4～5年、四全総が発足してから伸び率が一番高い都市であります。もっとも他にもう少し小さい都市で大津などという都市がありますが。

四全総がちょうど真ん中に達しましたので、国土庁という役所はこの四全総の見直しというのを、今年でしたか去年でしたか発表しました。その中の人口問題でこう書いてあります。東京の一極集中はだんだんその伸び率が縮まってきていると。そして実は、今言った札幌・広島などのような地方中枢都市、更にもう少し小さい所で、中核都市と言っていますが、この位の都市がいずれも伸びているという書き方をしています。しかし国土庁の言う事に騙されてはいけないのではと私はいつもそう思っています。どうも東京の言う事について全部信用はできないぞと、私はかねがねそう思っています。確かに東京の流入人口は80年代の後半は、年間平均13万5千人入っています。ところが90年には9万代、91年には7万、そして去年は4万というふうに、だんだん流入人口は減ってきているわけです。ではそうではないのかという事になると思いますが、それでは東京一極集中が減っているかという、実はそうではなくて、私は3つの意味で違っているという気がしています。

その一つは、首都圏というのは今までは東京・埼玉・千葉・神奈川の4県でしたが、その首都圏が広がっているんですね。今申し上げた他に、茨城・群馬・栃木・福島とい

う所の人口増加というのは非常に大きくなってきています。この間、栃木県の経済研究所5周年の行事に招かれましたが、栃木県は20年位前までは実は人口減少県だったわけです。それが今は完全に揺り返しがあって、物凄い勢いで伸びているわけです。ですから首都圏というのを小さく考えないで、もう少し広いグレーター首都圏と考えれば、実は依然として東京一極集中であるという点が第1点です。それから第2点は外国人が増えています。今、不法外国人を含めて、私は日本に50万人位の外国人労働者がいるんだろうと思います。これはほんのこの5～6年の間に、最近はずっと減っていますが、増えた人間です。その人間の大半は首都圏にいます。そうすると実は13万から4万に減ったと言っても、数十万の外国人が首都圏に増えているとすれば、これからは日本人だけが日本人ではないと私は思いますので、東京一極集中というのは、そういう意味からも違うのではないかと、解消されていないというふうに思います。それからもう一つは、これも率直に言って、お年寄りが地方に残って若い人が首都圏に行くわけですから、東京の出生率は減っていますが、首都圏全体の出生率は、当然若い学生で向こうに行って恋をして結婚して住むわけですから、人間の増え方は全然違います。地方の出生率はどんどん減って来るという事を考えれば、首都圏の一極集中というのは今のままで行けば、日本の日の丸の真ん中の赤はもっと輝くという事になるのではと私は思っています。

しかし今、実は人間の考え方に大きな変化が起こりつつあるという事は事実だろうと思います。先程、諸井さんからもお話がありましたが、政治も変わるでしょうし、行政はちょっと怪しいですが変わるでしょうし、いろんなものが変わってきます。しかしもっと大きいのは、実は人間の考え方が、物凄い勢いで変わってくる可能性があるという気がします。今、東京で調べてみますと、東京に住んでいる一流企業や銀行や中央官庁にいた人間は、今は東京で定住をしているが、将来は地方に住みたいという人間が半分はいます。今そういう時代になりつつあるんだろうという気がします。ですから我々の思索、あるいは考え方、行動如何によっては、実は今言った大きな川の流れが方向転換をする可能性は十分にあるという気がします。時間がありませんのであまり申しませんが、何故東京が嫌かという理由は、我々にとっては十分な示唆になると思いますが、先程も諸井さんが言われた、東京には自然が無いという事です。2番目には東京では家が持てないという事です。3番目には東京では時間的にも精神的にもゆとりが無いという事です。しかしそれに関わらず、半分の人がまだ東京がいいと言っているのではないかとおっしゃるかもしれませんが、東京は何故いいのかというと、東京は実は一言で言えば面白いんです。ですからその面白さというものを、地方でどう見出ししていくかという事が、物凄く大事な事だろうと思います。その面白さというのは幾つかあります。例えば仕事の面白さがあります。今、大企業の中の歯車の一つとなってやって行くという事が面白いかというと、これは大分怪しくなってきました。そしてむしろ大メーカーではなくて、今までの下請けとかあるいは流通とか言われた部分の方が、ずっと面白いという仕事が増えてきました。これをどう生かしていくかという事です。2番目は遊ぶのに面白いと

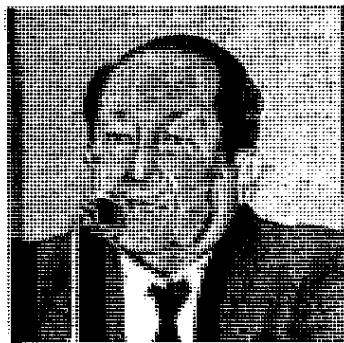
いう所です。広島も随分面白い所はあるんじゃないでしょうか、サンフレッチェがあり野球があり流川があると、しかしもっと大事なのは3番目には知的に面白いという事、あるいは感性的に面白いという事が大変大事な事だと思います。そういう事をどう生かしていくかという事で、今言った方向が変わっていくのではないかという気がしています。

札幌仙広福の中では、私どもの都市が一番最初に百万都市になりました。1975年になりました。ですから少しは先輩なんです、まだまだ足りない点もたくさんあります。それから、今言った問題点もたくさんあります。そういうものをどう解決していくかという事を考えていますので、是非お知恵を頂戴したいというように思っています。ありがとうございました。

樺本：ありがとうございました。それぞれ全て基調講演をお願いしたいような方ばかりですので、10分という時間は無理なお願いですが、それでは仙台から藤崎さんお願いいたします。

3. 仙台からの報告：東北地方のまとめりと仙台のリーダーシップ

藤崎：仙台の藤崎です。本日は広島にお伺いする事ができて、我々自身嬉しく思っておりますし、今日お話の札幌仙広福というのは、こちらのご発想であったそうですが、我々にしては一番これを有り難く思います。と申しますのは、先程石黒さんがおっしゃいましたように、仙台が政令都市になりましたのも、ごく4年ばかり前でして一番後に近いところでございます。しかもそういう意味では一番遅れてお仲間入りをさせて頂いたわけです。これにはいろんな事情もございましょうし、東北地方と一口で申しまして、これがかなり面積が広いいろんな事情がございます。



藤崎 三郎助 氏

一番簡単に申しますと、あそこはかなり前からいろいろな人が住んでいた事が最近分かってきましたが、ごく最近の歴史的な事実を申しますと、特に明治維新前の要するに維新の直前に戊辰戦争というのがありました。これは奥羽列藩同盟という奥州13藩が連合しまして、薩長の勢力と対峙したわけですが、この戊辰戦争というのが、明治維新が決定的なものになる直前の最後の争いでございました。実際は戦闘は会津と長岡にあっただけで、あとは二本松で少しありましたが、実際の戦争というのはあまり大した戦いはなかったのですが、その戊辰戦争の結果、東北というのはいわば朝敵的な扱いを受けていたという事がございます。これは今はあまりはっきりしていませんが、我々の地方

の碑などを見ますと、賊何々と書いてあります。賊とは一体何をしたんだろうと思うと、戊辰戦争において敵であったという事で賊という扱いを受けていたという事も現実でございます。それが一つあって、その戊辰戦争の間のいろんな経緯がある為に、東北全体のその時は13藩ありましたが、それぞれの地方においての融和というのはなかなか難しくなっているわけです。ですから一口に東北と言っても、これがそういう事情でなかなか意志の統合ができなかったわけです。

一方、明治政府は特に大久保利通の時に、その状態についてこれからの国政としての行方の面から危惧しまして、明治天皇が2度にわたって東北巡行をされています。そんな関係がありまして、彼はかなり意を用いて融和という事をやりました。実際に政府としてある意味では今よりも国の金を使って振興をやろうとしたという事もございますが、これはいろいろな技術的な問題もありまして、成功したものもありますが、失敗をしています。そんな事で、いわば遅れを取ったという事が、現実に明治維新のスタートからございます。それが東北地方のいろんなマイナスの要件として、現在まで特に感慨の中にくっついているわけです。

では具体的にどうかと申しますと、これは今申しあげましたように、実は今東北新幹線になりました東北線、これは青森迄ですが、これは明治23年か24年にもう全通しています。これは非常に早いんですが、日本鉄道という会社で全通をしておりますし、それから港については、今の仙台のちょっと北に鳴瀬川の河口に野蒜という所がありますが、ここにやはり大久保利通がオランダのドールンという技師を呼んできまして、この人に築港させ、言わば今の人工港湾を作らせようとしまして、かなり大規模な工事をやりましたが、遺憾ながら台風が2回来まして、その時の技術では台風に対抗出来なかったという事がございます。今でもその土塁とか石垣が残っていますが失敗しております。そういう事で、言わば明治政府における国家プロジェクトが途中で終えてしまったという事も事実です。そんな事でやはりどうも東北地方というのは、まとまりが内面的によくないという事が一つあります。そして私どもの仙台は、奥羽列藩同盟の盟主という形で、一番表面に立たされて頭を下げてしまったわけです。そういう事から言いまして、仙台によってひどい目に遇ったという気があるのかどうか知れませんが、いろいろそういう関係がございます。

それで地元の仙台としては、いろんな意味で例えば今度のような地方の分権化、一極集中に対する排除、それでは一体どこがリーダーシップを取ってやるのかという事になります。それでは仙台は人口的には一番多いのだし、そんな意味でいろんな行政官庁もたくさんあるから、中心になってやるかという事が言いだせないというのが、現実の姿として戦後継続しておりました。それが現状でございまして、たまたま政令市になりまして、こういう札幌・仙台・広島・福岡というようないわば標語スローガンの中で、仙台もそれでは札幌・広島・福岡と同じようなポジションに立って、言わば地方の中核拠点としてそういう意見を述べ見解を披瀝できるという事になると、これは仙台にとりましては非常にや

りやすいというか、その立場が非常に変わってきます。今までどちらかと言うと、直接東京と繋がる事を以て近代化というふうに思っていた点が明らかにございます。それが例えば飛行場の問題にしても、方々に飛行場ができて便を繋ぐという事ですが、これはこれとしてとにかく仙台が東北の中心になるという事につきましては、少なくともあまり全面的な賛成は実際のところなかなか無かったという事が現実でございます。それが今申し上げましたような事で、こういうシボジウムがあり、また仙台におきましても多少こういった事が行われるようになるという事は、いわば我々にとりましても非常に立場が広がったという点で、各先輩都市の方々に心から御礼を申し上げたいと思うわけでございます。

先程の諸井会長のお話にもございましたように、やはり各地方地方何も同じカラーでなくてもいいけれども、少なくとも地方におきます拠点と申しますか、そういう形のものが存在し、またそれが具体的な活動をしていかなければならない事は当然でございます。その意味では我々が今後、少なくとも120年前の戊辰戦争の残滓を払拭して始まるという事が、我々にとりましては非常に大事ではないかなと、かように考えている次第でございます。幸い今の世の中はコミュニケーションが非常に発達しています。それから交通もただ鉄道ばかりでなく空路、また船の便も貨物は勿論ですが旅客中心のクルージングとか、趣味と実益と両方の点からいろんな意味のコミュニケーションが複雑に発展してきていますので、こういう点ではこれからの世の中の動きがやりやすくなってきたという事も事実でございます。それから先程、石黒さんがおっしゃっていましたが、北関東圏が東京にあるという意味では仙台付近まで東京圏に入っているという事も、現実的にはこれは嘘という事は申しあげられないです。しかしまたそれはそれで逆の意味において、こちら側が一種の都市化と申しますか、色々と機能的に進化してきているという事であれば、それはそれでまた地方における拠点として、そととのコンタクトを取る事によって、種々の動きが出来上がっていくのではないかと、かように考えているわけでございます。

実は今の福島県と栃木県と茨城県のこの3県がフィット（FIT）という構想を持っています。この3県で一つの経済圏をつくりたいという考えを示して、現実にもそういう事もございました。しかし、最近あまりフィット構想というものをおっしゃる事が少なくなってきたようです。こういう点から見ましても、やはりこういう動きというのは、東京一極集中の排除という意味からも、いろんな構想が出てくるわけです。東北の場合はやはり土地の広さとそれから東京圏に近いという事に於いて、また特別の意味を持って、その考え方に我々は進んで行かなければならないと、かように信じているわけでございます。

樺本：ありがとうございます。私どもから見ますと、東北の中の仙台というのは、言わばガリバーというか非常に大きなオピニオンリーダーだと思っておりましたし、「独眼流

政宗」とか「炎立つ」とか、またインテリジェント・コスモス構想を見ますと、東北というのは仙台を中心にして纏まっているのだなと思っていましたが、お聞きしますと随分違うもので、やはり直接お聞きしないと分からないなというふうに思いました。さて、それで地元の方の受入れ側ですから、最後にお話を賜るのだ一番いいのかもしれませんが、札幌・広島ということで北から順番に行っていますので、広島の森本さんよろしくお願いたします。

4. 広島からの報告：地方中枢都市広島の現状と課題

森本：森本でございます。こうやって場内を見ますと、おおかたの方が当地のご出身者ですので、ことさら皆さん方に広島の現状をお話するのどうかと思いますが、7～8分で、私が考える広島の現状についてお話をしたいと思います。



森本 弘道 氏

広島市の目指す都市像は国際平和文化都市です。プロジェクトとしては、何はさておいても、来年10月に開催される第12回アジア競技大会を成功させる事、西部丘陵都市を建設する事、紙屋町地下街を今から作っていく事、それから広島駅の南口再開発を行う事、宇品出島沖地区のメッセコンベンションの拠点整備をする事等々と、枚挙に暇が無い位でございます。先程の四全総についてですが、残念ながら我々広島は何れのプロジェクトも四全総から外されました。来年あたりからまた比較検討されるでしょうが、五全総に向けてひよっとしたらこの中国・四国のプロジェクトが、また飛ばされはしないかという危機感を持っておられる方が非常に多いのです。そういう現状にあって、広島がアジア大会を機会に中・四国の中枢管理機能都市として、もっと前向きに開発を進めていかなければいけないという気持ちでいます。時間もございませんので、私が考える中枢都市広島の現状について、お話をしたいと思います。

狭義の意味で、広島市は現在人口が109万人となっており、広義では、1時間以内の地域を一つの目安としている経済圏で、具体的には6市39町村で約200万人と言われています。そういったことを広島地方の中枢都市として頭に入れて話を進めたいと思います。ここ10年20年の期間を捉えて見ますと、中枢性の高まりを人口の増加で捉える事ができます。1970年に160万位が、10年後には185万、そして1990年には200万人と順調に増加しています。そういう中で中枢都市の役割について、3つに要約して申し上げたいのですが、1つ目は高次都市機能の集積という事です。これは行政を始め経済・学術・文化・産業支援、さらには国際交流に関わる機能を集積強化する事です。この行政・経済・文化等に関わる機能については、札幌・広島と比較してそう大きな差はなく、広島も順次拡

充していると思います。強いて挙げるならば、大学とか短大、大学院の学生数、情報サービス業、国際会議の開催件数等が、相当広島は見劣りしています。ただ1点、上場企業の本社立地数で広島が抜きんでて多い事です。

2つ目は人口と産業の集積についてですが、ご存じのように広島は非常に面積が狭いわけですが、可住地面積、人間が住める面積が札幌・仙台・福岡の順です。447・331・257・255km²となっていて、福岡の方が狭いようですが、総面積に占める可住地面積の比率が、広島は何と35%しかございません。福岡は67%で、札幌・仙台はそれぞれ40%・42%という数字です。それに広島は、地価が高いし、軌道系の交通が未整備であることが先程の人口の増加と産業の振興に大きな障害となっています。産業の集積は、申し上げるまでもなく、広島には自動車や機械工業・造船・鉄鋼等が、戦後早くから立地しており、第2次産業の就業者数とか製品の出荷額で捉えれば、これは広島市をとっても3兆円位ありますから、他の3都市と比べると3倍位になっています。只そういう特長がある反面で経済のソフト化・サービス化が相対的に広島は遅れており、小売り・飲食・ホテル等の第3次産業の成長が今一步であります。

最後の3つ目は、都市基盤の整備の問題ですが、交通網の整備が遅れている事に加えて、通信網の整備も遅れている面が多々あります。アジア大会が来年に控え、ここ数年急速に整備されており、この26日には山陽自動車道が広島県内全域で開通いたします。それから今年中には岡山ー広島間も開通しますし、29日には新広島空港が開港し、福山からも新広島空港に非常に時間的には近くなるという事です。滑走路も2500メートルで、ジャンボ機のような大型機でソウル・香港に加えて、シンガポール・バンコクその他へ直接行けるようになるという事で、広島の国際化に大きく弾みが付くと思います。この空港問題で、札幌・仙台・福岡の空港と比べますと、広島は非常に見劣りがしてしまっていて、今から拡充されるという感じです。それから県内の交通網の整備がまだ非常に遅れていまして、この新空港がどう機能するかという事が、広島地域また中枢管理機能都市の役割がどう果たせるかという事に関わると思うのです。少し宣伝めいて申し訳ないのですが、今朝、私どもの千代田支店がオープンして、町長さんにお会いしていたのですが、千代田町民は、新空港へ行くのに広島を通っていかねばならず、2時間位かかります。千代田町は交通の要衝ですが、あそこから新広島空港に高速道路を付ける計画があるようで、それが実現すると40分位で新広島空港にいけます。そうすると松江・浜田・三次辺りからも、新空港が非常に近くなるため早期の着工整備が期待されているようです。また広島港も特定重要港湾に指定を受けていますので、陸・海・空の三方面から都市間の高速交通ネットワークが完成されてきますので、朝夕のラッシュも緩和するし、産業基盤の整備にも役立つという事です。

以上広島の現状は、札幌・仙台・福岡の三都市と多少遅れながらも、着実に都市内の整備と機能の充実を図って、広島が中枢性を高めている途上であるという感じがします。

櫛本：森本さんが言われた、広島交通の悪さというのに、多少なりともご責任があります、福岡の石井さんからご発言をお願いします。

5. 福岡からの報告：福岡の急成長と九州のポテンシャル

石井：私は実は、ご当地の広島県生まれの東京育ちでして、それから国鉄に長い間おまして、ちょうど20年前にオリンピックの頃ですが、札幌に勤務していました。それから10年前に生まれ故郷である広島で勤務しまして、今は福岡にすっかり根を下ろしているわけです。櫛本先生から少し挑発的な発言をというお話がありましたので、この三都を私なりに比較した感想ですが、札幌は何か北欧的な美しい都で、北海道の名実共に中枢管理都市かなと思います。広島は交通などもその責任の一端があるの



石井 幸孝 氏

かもわかりませんが、中枢管理都市という機能は少し弱く、この地域の商業・工業で基盤を作っている都市というような感じがします。知名度は世界的に抜群です。それから福岡はどちらかというアジア的でして、そして最近とみに実の方では九州の中枢管理都市になってきていますが、名の方という点ではまだ九州内の各都市と競争的な感じがあります。歴史的にも九州の中心都市は時代によって長崎とか北九州とか熊本とかというように変わってきて、そういう中で競争で育ち上がってきたのが福岡という感じがします。この三都市共通して言えるのは、住みやすく、薄野・流れ川・中州もあり、本当に楽しく素晴らしい都市ではないかと思えます。いい仕事があれば永住したいという点は、この三都市共通ではなかったかと思えます。

そこで福岡のご紹介ですが、斜に構えた自己紹介というのもございますので、旅行好きで女性に人気のある作家椎名誠さんの週刊誌の連載の丁度昨年の号でたまたま「都市の顔」という題で、大変福岡にとって名誉な記事があります。福岡というのをこういうふうに見ておられます。「国家機関やその関係筋がこしらえる尺度とは別の、もっと生きていて目に触れる物、そういう都市のレベルを述べると、今、日本の町で最も活気があって勢いがあるセンスがいいのが福岡だ。いつも町が変わっていく印象だ。どんどん新しい店が出来、町を歩いている人はお洒落で威勢がよく、四季を通じて美味しい食べ物が出回っている。新しい物と旧来の物が程よく妖しくミックスされていて、僕には何となくシンガポールのイメージがあり、奇妙に刺激的である」とこう言っています。このところとみに福岡は成長しています。人口も伸びていますし、いろんな開発が出てきています。それから福岡というのは、面積は札幌の3分の1位しかないんです。周辺に都市が沢山くっついていきますので、大体200万位の単一の都市みたいな感じです。その他に

衛星都市があるという事です。それからこれは何を言っているかという、実は若い人に魅力がある、若い人が多く大学生の数も確か東京・京都について多いと思います。最近では福岡ドームができて、マイケル・ジャクソンが2日間福岡だけ来て帰ってしまうんです。全国から飛行機で見に来て6万人集まるとかいう事です。それからもう一つは国際化です。福岡空港からアジアを中心に、外国に20何都市に飛んでいます。アジアの公館なども増えています。現在のトレンドに乗った芽生えがある感じです。ただ泣きどころもありまして、水が不足気味とか、都心の交通渋滞があって困っているとか、こういう事があります。

それからもう一つ、バックグラウンドとしている九州ブロックの紹介をしてみると、九州というのは結構ポテンシャルが大きいんです。これはちょっと中国地方に叱られるかも知れませんが、山口県と九州の7県を含めた地域が大体経済活動のゾーンで、1400万位の人口があります。それから長らく重厚長大産業と食料基地だったんですが、最近3つの新しい動きがあります。1つは自動車産業です。トヨタ・日産の新鋭工場ができて、九州にシフトしてきています。それからテーマパーク等がどんどんできて、これは観光基地になってくるのではないかという事です。それからもう一つはアジアとの密接な関係です。そういう点が福岡が中枢として伸びる九州地域のバックグラウンドではないかという事です。只、九州というのは先程もちょっと申しましたように、九州というアイデンティティはあるんですが、どちらかと言うと、群雄割拠型の都市群国家みたいなところがあります。ですから今でも「九州は一つ」というのがスローガンです。ということは現状では九州は各地域都市がばらばらで、一つ一つだという事なんです。その事は競争という意味でエネルギーでもあります、これからの問題点だろうと考えています。

最後に私の本業に関係あるんですが、そこに交通というものが非常に関わりがあるような気がいたします。都市圏の交通もありますが、特に九州ブロック内の交通ですが、これはここ4～5年で大分よくなりました。一つは高速道路が一気に完成しはじめました。遅れていたわけです。それからJRになりまして、私どもも九州インターシティネットワークといって、福岡集中なんです、どうしても経済原則で作るとそうなるんですが、北の方は30分間隔、南の方は1時間間隔で、全部福岡に来る特急網を構成して非常に便利になりました。長崎から特急かもめ号がありますが、週末になると福岡の中心の天神に遊びに来て、「かもめ族」という言葉ができました。熊本から来るのは有明という特急で「有明族」、宮崎からは高速バスのフェニックス号というのがあって「フェニックス族」と呼ばれます。最近では「ハイウェイかもめ族」という名前も出てきています。そういうような交通網がありますが、まだ時間がかかって駄目です。従って九州は今新幹線で、鹿児島ルート・長崎ルートを整備しようとして一生懸命考えています。折角人口集積の大きな都市のたくさんあるエナジーというものが、一つに糾合できないわけです。都市の影響力というのは、万有引力の法則みたいなもので、都市が2つあるとその大き

さとその間の時間距離の逆数というか、そういうもので影響力があります。新幹線が通りますと、だいたい北の端と南の端が3時間45分位なのが1時間ちょっとになりますから、九州経済界としても交通体系の遅れを取り戻そうというのが非常に大きな課題です。

それからまた、城外との交通が一面では非常に良くできていて、空港が博多駅から地下鉄に乗って5分ですから、そこから先程のようなルートがありますし、今は釜山にも高速船で2時間55分で行きますが、しかし九州に24時間国際空港を作ろうというのが、またもう一つの九州戦略でございます。だいたいそんな事でございます。

樺本：新空港はどの辺にできそうですか。

石井：それはまだちょっと軽々しく発言できないところでして、先程も申しましたように、今各地域でひっぱりあいですから、まだちょっとクエスチョンマークです。

樺本：わかりました。先程石井さんが広島交通問題に多少なりとも関係がおりかと申し上げたのは、国鉄時代に広島管理局長でいらっしゃったということでそう申したわけです。そういう意味では広島に大変お詳しい方でございます。諸井さん、今の4人の方々のお話をお聞きして、どんなご感想をお持ちなのか、ちょっとご発言をいただければと思います。

諸井：皆さんそれぞれに一ひねりも二ひねりもしたお国自慢で、大変楽しく拝聴しました。先程、藤崎さんが札幌広福（さっせんこうふく）と言われましたが、それぞれに大変幸福な町ではないかなと思います。また後ほどお話をしたいと思います。

6. 地方中枢都市のダム効果と単身赴任

樺本：ありがとうございました。それではこれで第1ラウンドを終わりました。目下順調に進んでいます。第2ラウンドは、さあこれからどうするかという問題です。一つは広島でもしばしば問題になりますのが、東京一極集中が悪いのなら、中国地方の中の広島集中も悪いよという意見も根強くあるわけですし、これがいいのか悪いのか、それぞれの地域でもやはり同じ事があるのではないかなというふうに思っています。只私の意見では、東京集中と広島集中というのはちょっと違うんで、多極分散型という時に、東京の最高の機能が広島あたりに来るわけもございませんが、セカンドクラス・サードクラスの高い機能が、東京から地方に流れて行く時に、その機能が高ければ高いほど、地方にもって行くと移植枯れをする恐れがございます。それが小さな都市に持って行くと移植枯れするけれども、札幌広福くらいの地方中枢都市になりますと、移植枯れを免れ

て細々ながらも、東京ほど生き活きとはなかなか行かないかもしれませんが、多少なりとも成育するだろうと思います。そういう意味で東京の機能を、全国の津々浦々に持って行くわけにはいきませんので、その受け皿としてこの「札仙広福」の重要性ということが言えるのではないかと思います。

国土庁の方はこの「札仙広福」にかなり冷たいように思います。今は国土庁も中枢都市という言い方をしていますが、国土庁で3～4年ばかり前にやりました政策部会の委員会では、相当規模を有する中核都市という表現で札仙広福を示していた時期がございます。中核都市のグループに属していました。相当規模を有する中核都市となると、横浜も川崎も北九州市も神戸も入るわけで、これらの都市は中枢都市とは違うんだろーと思ひます。特に諸井さんにお聞き頂きたいのですが、大きな都市と中枢都市というのは違うということです。例えば四国で申しますと、やはり高松が中枢都市だといえますが、人口はわずか33万ですから非常に小さな都市です。どうも国土庁の言い方は、札仙広福に冷たい、中枢都市に対して非常に冷たいように思えます。現在では国土庁も中枢都市という言い方をしてまして、中核都市はだいたい30万人口以上プラス県庁所在地、そしてその影響力が県内にほぼどまるものを中核都市といっているんだろーと思ひます。中枢都市はブロック全部とはいきませんが、少なくとも複数の県にまたがる機能を持っているのを中枢都市というふうに表現していると思ひます。北海道の人口はどんどん減っていますが、札幌はどんどん増えていて、他都市から必ずしも良くは言われなところもあるかと思ひますが、その辺の悩みも含めまして石黒さんお願いいたします。

石黒：今の中枢都市というのは、だんだん国土庁もそうは言うものの実際に人口が増えているのはそこだという事で、少し評価が上がっているのではないかなと思ひます。只私は、他は知りませんが、札幌に関して率直に言う、札幌が何故大きくなっているかという、一つは私が批判をした東京一極集中のおこぼれの部分があると思ひます。それから逆に地方の側から言う、実は東京に行きたいのだけれども、東京にはいっぺんには行かないで、そこで札幌というダムの中に溜まっているという事です。ですから実は日本全体の産業・地域・行政・政治という大きな流れの中で、そこに一つの恰好でいくとダムになるのかもしれない。そういう機能で今まで伸びてきているという事になると思ひます。その証拠に、今言った中枢都市というのは、極めて象徴的に言うと支店長の町なんです。企業で言う、だいたい取締役か取締役一歩手前という支店長・支社長が、札仙広福にはだいたいいるんです。そしてこれが殆どチョンガーです。これは統計でみると、地方局長・管理局長の時代はどうだったか知りませんが、局長もだいたいチョンガーです。広島はどうか分かりませんが、札幌は殆どチョンガーです。ですから先程諸井さんが言われた、いつでも東京を見て、早く転勤辞令が来ないかなと思ひて今までは生活をしていたわけ。さあそれでいいのかなという事ですが、そんな中で一番チョンガーの率が多いのは広島ではないでしょうか。広チョンがナンバーワンだと思ひ

います。昔は札チョン・博チョンと言っていましたが、2番か3番に落ちて、広島の支店長のチョンガー率は一番高いのではないかなと、国勢調査で見ました。これはおそらく便利が良すぎるのではないかと思います。

標本：それは奥さんが来たがらないからですよ。

石黒：だからそこが問題なんでしょうが、逆に奥さんが広島にいて、旦那が東京に行っている率、これを逆単身という、実はそれが一番高いのは札幌なんです。ちょっと自慢するようですが、女房が札幌を離れたがらないわけです。貴方だけ東京へ大阪へ行っていられっやいというわけです。それが一番低いのが広島なんです。すみません。

標本：多分そうだと思います。

7. 地方分権と財源確保

石黒：さあそこでこれからをどうするかという事を2つほど提言をしたいと思います。これはいろいろご意見があると思いますが、札仙広福（さっせんこうふく）が本当に幸福になるためには、諸井さんが言われた、今の地方分権と地方分散とは違うという事でしたが、これは地方分権をしなければならないのではないのでしょうか。そしてどういう修正がいいのか分かりませんが、しかし北海道が500～600万、東北が1000万、中国・四国・九州が1200万、そういうある種の連邦制か道州制か、そういう風に考えていかないと、本当の意味の札仙広福（さっせんこうふく）は幸福にならないのではないかな。そうしないといつでも、東京から来た人が東京の方の空を仰ぎながら、流川で酒を呑んでいるという事にならないだろうかなという気がします。そしてその時に大事なものは実はお金です。私は元は銀行屋ですから、金が一番世の中を支配すると思っていますから。ではそんな事を言っても一つ一つの連邦制度ができるのかという問題があります。今言った中で中国地方は少しいいかもしれませんが、後はだいたい半分位は国家財政の資金に頼っているという計算です。札幌が一番悪いと思いますが、それにしても4～5割位が、おそらく国家財政に負担を負ってやっているのではという事なんです。

しかしこれは私は少し違うと思います。それは何故かという、法人税と消費税についていうと、これは全部今の主旨でいくと本社で収める事になっています。だから日本で一番集める税務署は麹町税務署です。ここを筆頭に東京だけで日本の国税の35%を収めているんです。関東地方で50%を超えているんです。そんなばかな事はないでしょう。東京には1000万しかいないんです。それが半分とか35%収めるはずはありません。それは例えば全国各地方の三越の支店でわれわれが支払った3%の消費税を、本店のある日本橋の税務署に収める仕組みになっているからです。

榎本：広島其三越で買っても消費税は東京の三越に集めているわけですね。

石黒：ですからそれをきちんとした形で地域に分配するという事が一つです。出雲の岩国市長が言われているような、故郷税みたいなものをきちんと返す必要があるのではないかと。子供の時は自分が育てて、そして島根県の高校に入れて、東京の慶応大学に行ったとします。毎月150万円の仕送りをして、卒業して帰ってくるかなと思うと、東京の企業に入社して帰ってきません。しかし島根県には親がのこって、やがて年を取って国保の負担を負うという形になります。親の面倒を見ないわけですから、そうするとその負担だけは地方が見て、働き部分は全部東京に持っていかれるという事です。これは私が計算すると12兆円あるんです。それからもう一つは、今日私は広島的全日空ホテルに泊まりました。朝起きてトイレに行きました。水を流しましたが、この下水負担は広島市民で私は市民税を払っていませんね。今国土庁では定住交流と言っていますが、そうするとこの交流の部分の資金負担もどう見るのかという事も、きちんと見てもらわないと実は困ると思います。先程石井さんが言われた椎名誠さんは、町民票を余市町に移していますが、余市町に町民税を払います。彼は今どこに住んでいるのか知りませんが、そういうあり方はきちんとした形で取り組まないとおかしくなってしまうのではないかと。これは東京都の場合ですが、東京の丸の内1丁目には住民は3人しかいません。ではそこに3人の分の公共投資でいいのかというと、それは困ります。そこには定住はしていないけれども、何十何百万という日本人がいるわけですから、道路整備はしてもらわなければいけません。そこはしかし定住ではないけれど交流の人口はいるわけです。それをきちんと分ける形のものをしてもらわなければいけないのではという事です。そうすると実は金の流れが大分違ってくるのではないかとという事が一つです。

8. 国土交通網の再編

石黒：もう一つは交通です。私は今の軸論議はあまり賛成ではありません。軸というのは日本列島は長いわけですから、線で引っ張るとどこで止まるかという、真ん中の東京に止まるのは決まっています。そうではなく、ランダムアクセス型のハブアンドスポーク型というか、もっと恰好良く言うと、今のような東京中心のピラミッド型ではなくて、ダイヤモンドのような形にしてはどうかと。札幌・広島・新潟とか松山とか鹿児島とかいうふうな所に、だいたい300キロ位に置くと8つ位の拠点ができると思います。その拠点を結ぶラインというのは何本あるかと言うと、 $[8 \times (8 - 1)]$ の2分の1ですから28路線になります。今日本にジェット機が300機ありますから、その間を1時間で結ぶとすると300回線あります。そうすると広島空港は28しか路線がありませんから、10分置きに札幌にも沖縄にも福岡にも飛べるようになります。今の広島空港ではおそらく駄目

だと思いますから、その位のランダムアクセスを考えたらどうかという事です。300機を全部国内路線に使うわけにはいかないのであれば、では100機を使って30分置きに8時には必ず着くという事。そこから新幹線で10分とか15分で1時間で着きますよという形になればいいのではないのでしょうか。今は全部東京に行って、あの羽田の混雑の中でそれから飛ばなくてはなりません。列車というのは皆そうでしょう。東に行こうが西に行こうが南・北に行こうが、全部東京に行くのは上りです。東京から下りるのは全部下りで、地方は下りかという事です。そんな馬鹿な事はないのではないですか。東京は上で地方が下などという事はありません。だから全部ダイヤモンド型に並べるというシステムを考えられないだろうかと思ひます。この2つをやると札幌広福はものすごく幸福になるのではないかと思ひていますが、どうでしょうか。

樺本：ありがとうございます。大変いいご提言をいただいております。私も気がつきませんでした。三越で買い物をする時の3%の消費税は、東京の税金に上がって、それを我々は地方交付税として地方が有り難がってお金を頂いているということですが、これはちょっと逆ですね。それでは仙台から藤崎さんお願いいたします。

9. 東北地方における第2国土軸構想

藤崎：只今の石黒さんのお話は、私どももその通りだと思う点が多いんです。特に税金の点ですが、今地方交付税として30数%を地方に戻すと言ひますが、中央から戻してもらうのであれば、そういうものは元々、税金はだいたい東京に本社があるから法人税が集中するという事は事実であります。最近ここ10年の間に、例えば大阪に本社があったのが全部東京に移っているのしょうから、そういうものが元のようになればまた大分違ってくるし、だからこの税金の方式を改めていただければ、おそらく逆に3か4が中央で7か6が地方だという事になれば、これで税金の負担の公平という事がかなり良くなってきて、いわば交付税的な陳情によってもらうとかいったような必要なくなるだろうと考えている次第でございます。

それから今の国土軸の問題ですが、これは実は今東北の方では一番問題になってます。この国土軸が何故問題になるかという、これは四全総の時に仙台の東北経済連合会で一つの提言をしました。先程諸井会長のお話の中でございました、例えば最高裁判所を福島とか、あるいは迎賓館を松島の島の中に作るというような提言をいたしております。その頃は東京から300キロ圏に拠点というか分散的な、300キロ位の都会にいろいろな分散をするのがこれからの地方定住圏構想でもあったわけですが、そういう意味で非常にいいんだという事を国でも考えていたようです。その頃出てきたのが、第2国土軸の問題でありまして、これは東京からずっと北に行きまして仙台・青森を通して、トンネルを通して札幌まで行くと、これが第2の国土軸です。第1の国土軸というのは、

東京から西にまいて名古屋から京都・大阪を通過、瀬戸内海を通過して九州まで行くという軸です。第1の国土軸は、ご承知の通り日本の高度成長を担ってきた所ですから、これにいろんな物を入れる余地は少なくなっています。そうすると空いているのは、2番目の北に行く国土軸だという事ですが、これも1000キロあるわけです。1000キロと1000キロで同じ位の長さであるから、そういう意味で国土軸を第2の国土軸として考えるという事であって、東北地方ではそうだと行ってやっていたのであります。

実は東北の中にも一つ、真ん中が新幹線が通っていないから山形県と秋田県を通る新幹線をつくれという意見があります。それから日本海側を通せという意見があります。新幹線が盛岡から青森が通っていないのは東北だけなのです。これは始めは早く通すはずでした。実は驚いたのが、ある所で北海道の方と打合せをした時に、あのトンネルをどうやって使うのかという事が提言されています。このトンネルは当然、新幹線が通って札幌まで行くために作ったのではないかと我々は理解していましたが、いやこれはどう使うのかという事でしたから、作る時の基本的な考え方とその後の利用の仕方、これは空路が非常に発達していますから、新幹線でどんな高速を出しても札幌までは3時間半位はかかるだろうと思うわけです。そうしますと、飛行機とどっちがいいのかという事になるわけでして、これも時間の問題でございます。ところが東北地方にとりましては、岩手県の北半分と青森県は新幹線が通っていませんから是非通して欲しいという考えで、これに第2国土軸という事が当然結びついているわけです。ただこの第2国土軸という事が非常に概念が曖昧であると、先日国土庁の方が来られてそういう意見を延べておられました。これはさっき冒頭に申しましたように、東北というのは非常に面積が広いものですから、今の国土軸というと、東北新幹線があって高速道路がある東側だけかという事で、では真ん中はどうなるのか、日本海側はどうなるのかという事が必ず出てまいりますので、そういう引っ掛かりがあるので漠然としていて、そこが曖昧であるというご指摘をいただいております。

そこで西の方にも一つ第2国土軸があって、それは渥美半島から、ずっと紀淡海峡を通過して四国を通過してそして九州に上陸して大分県の方に連絡するという軸です。こちらの方が、橋が何箇所、トンネルが何箇所という、具体的なプロジェクトがあるという事を国土庁の方は言っております。東北の方はどうもぼやけているというお話がありました。実はこのぼやける理由が、先程申しましたような、そういう中に意見の不一致がございますので、第2国土軸といっても漠然とは賛成してくれますが、それでは今の新幹線を延長し、高速道路が平まで来ていますがこれが海岸道路としてずっと仙台までまいります。そうすると高速道路が2本入りますし、それから新幹線があってという事になると、誠にそっちはかりだという事になります。

現実に建設省の道路局でも、このごろ考え方が変わってきたようでして、現在自動車は何台通ってそれからどうだという事です。この道路を拡張するか延長するかという事の根拠になっているのが、これからは政策的にどうか、将来これはどうするのだという

事です。例えば札幌・仙台・広島のようなこういう拠点都市という事があるとすれば、そことその周りとの関係の道路をまず優先するべきであるというような考えで以て道路計画を立てるのだという事を、建設省の道路局の方が来られて言うておられました。誠にそれは本当でありまして、従来通っている所はいいけれども、これから通るとする所は道がないわけですから、どの位車が来るかなんて事は分からないのです。そういう所は後回しになるという事であったわけです。それで我々としては、第2国土軸という問題は、これからの東北自体としての全体的な政策、これは東京と結びつくのは当然でございます。現在でも仙台が東京に一番早く、陸上交通では1時間42分で東京駅まで入りますので、これは近い事は事実であります。これも東京と大宮との間を110キロで運転していますから、これを普通通りに250キロまでに上がれば、1時間20分位で東京－仙台間をノンストップで行けるという事になります。盛岡までは2時間半位という事になりますので、距離と時間の問題から申しますと、誠に仙台は東京に近いという事になりますが、これはこれで地理的な事ですから、止む負えないというか当然の事だろうと思います。只、申し上げましたような関係で、東北地方が本当に、例えば仙台市が拠点都市として一般的に認められるような事になってきますと、これは当然東北地方における逆の意味の、交通のコンビニエンスというか便利さというものが生まれてくるだろうと思います。

10. インテリジェントコスモス構想の進展

藤崎：私どもの仙台では、先程樺本先生からご紹介のありました、インテリジェントコスモス構想というのを、東北大学が主唱しまして西澤学長も一生懸命おやりになっています。これでもやはりまた仙台かという事を言われたそうです。いやそうではなくて、東北に13の大学があって、その13大学に全部それぞれ研究所を作って、それが総合的な一つの連関をもって、一つの技術的な発展を図ろうという事で始まりまして、ようやくこれが今、いわゆるR&Dといいます研究所が新潟まで出来てきたという事です。何も仙台一極集中をやろうというのではないという事がだんだん理解をされてきています。そういう場合にも、冒頭に申しましたように、札幌・仙台・広島・福岡の4都市が特にその地方の拠点として、その地方地方との連関に於いて今後の発展を図ろうという事については、おそらく各地方で、そんなに我々だけがうまい事をしようという考え方は減ってくると私は思っております。

先日も東京の首都機能の移転という問題が論議されました時も、以前は何処が一体首都になるのかというと、わあわあとなるんですが、そういう事よりも先程の諸井会長のお話のように、首都機能のそれぞれが分散していくという事になれば、どこに首都が移るなどという事は二義的な問題になるだろうと。そういう意味で、考え方がだんだん具体的に且つ一般的な常識的な考え方になってまいりましたので、我々もこれからは安心して、東北なら東北が仙台を拠点都市として、そこに一つの統一的な今後の計画が立

てられるというところまで来たという事は、ここでご報告として申し上げてもいいのではないかと思います。只、今のところはどうせ概念が曖昧だとか、国の中央の方からは評判は悪いわけですが、それは今までの歴史的な過程があり、やはり東北人というのは引っ込み思案で遠慮が多いものですから、あまり申せないという事がそういう結果を生んでいるんだという事ですが、質的には非常な変換が行われつつあるという事を申し上げたいと思います。

樺本：ありがとうございます。それでは森本さんお願いいたします。

11. 広島の魅力と活性化

森本：私は広島ですので、若干謙虚でなければいけないし、3都市の皆さんにお世辞も言うべきかと思い、夏休みを利用して札幌・仙台・福岡にお邪魔しました。福岡は以前私が住んだ町でもあり、札幌・仙台も久しぶりにお邪魔して、本当にその発展振りに驚嘆しました。しかし、広島に帰ってみるとやっぱり故郷がいいなと言うか、ほっとしました。これは私が広島に生まれ育っただけではなくて、やはり広島の良さがあるからです。よく東京都札幌区と言われたり、仙台も東京の一部だとか、福岡は九州の福岡というより、アジアの拠点都市福岡を目指しているとか言われますが、まさしくそういう国際都市になっています。それはもうびっくりするような状態で、東京以上だなという部分がありました。チョンガーが広島が一番多いとか、その逆単身がどうかという統計があれば、私も詳しく調べてみたいのですが、広島はやや土地の値段が高い点もあるが非常に住みやすいし、女房が広島を気に入って定年後に住むために土地を買ったという知人が何人かいます。気候風土もいいし、それ以上に人情の機微に触れて広島が住みやすいと言われる。ここらはひいき筋の見方ですが、広島にも広島の良さがあつて、東京の方の空を見ていつ帰れるかなと思う支店長さんはあまりなくて、広島の町をエンジョイしておられる感じがしてならないわけです。

ところで、都市基盤の整備については、3都市それぞれ広島より進んだ点もあつて成熟をしている都市であります。ご案内のように広島は遅れに遅れていますから、今から来年に向けてインフラの整備がすすめられますし、先進都市に向けてまだまだ成長性を温存しており、いい意味で広島が変わりつつあり、またそのような町にして行かなければいけないなという感じです。

12. 環三海二山ルート構想とQ構想

森本：第2国土軸のお話がありましたが、我々広島経済同友会は愛媛経済同友会と大分経済同友会とで、毎年交流会をやっています。その交流会の度に愛媛と大分の同友会から第2国土軸の話がでまして、九州から四国に橋を架けて、四国山脈を抜けて和歌山に通じるという内容です。一方で櫛本先生の主張されている、環三海二山ルート、即ち日本海・瀬戸内海・太平洋を結ぶ横断道があります。これは、松江・米子を通して岡山に抜けて高松から高知、さらに高知から愛媛・松山に北上して、それが呉や一部山口県に行き、広島市を通して三次を通して松江に行くルートです。広島湾内のルートについては、Q構想という名前でよく新聞等に掲載されています。朝、皿鉢料理を食べて夕方は玉造温泉で宴会という事が、瀬戸内海を中心とした中・四国の幹線道路が整備されることができるようになります。それを第二国土軸に結んで行けば、九州半分と中国が一体になれるという夢のような構想です。そして夢が夢でなくなる為には、やはりこういう事を主張し、我々が中・四国の発展をめざして九州と一体になって、諸井先生のお話ではありませんが、時間的な距離を縮めて近隣の都市と補完し合いながら、西日本が発展して行く方向を模索すべきであります。これから広島市が中枢管理機能都市としての能力・機能をもっともっと発揮する為に、新しい人材であり立派な人材を育成していく必要が、政界・産業界・官界あげて必要であろうという事を経済同友会でも研究をしているわけです。アジア大会がもう来年ですから、その後広島がいかにあるべきかという事を考える事が急務でして、経済同友会でもそういう提言を今纏めております。

13. 広島広域交流圏の形成課題

森本：それから近隣の都市として一極集中の話に触れますと、札幌の石黒会長に、北海道では一極集中が札幌に起こっており、周辺都市の恨み、つらみはありませんかと申しますと、それは非常に強く、苫小牧、函館、釧路なり小樽がだんだん疲弊している部分がございます。いい意味では札幌と補完し合いながら発展しようと思いつつながら、全部札幌に集中する状況です。仙台もまた山形県とか東北何県かの都市から集中しています。福岡ももちろんそうですが、福岡経済同友会の代表幹事の太谷さんという西日本鉄道の会長にお会いして、福岡がこれだけ発展して九州の各都市の恨みつらみはありませんかとお聞きしました。すると、福岡が一極集中しないと直接九州の町は東京に行ってしまうと、だから福岡がもっともっと中枢機能を発揮し、学ぶ遊ぶ住み憩うという事について、福岡がリーダーシップを取らないといけないというお話がございました。翻って広島では、経済同友会は呉・福山・三原・尾道・三次に支部があり、いろいろ聞いてみても広島に対する恨みつらみはないわけです。という事はそれだけ広島は発展してないし、広島をあてにしていないという事の裏返しかなと思います。そういう事ではいけないな

と思っています。岡山の代表幹事もご出席を頂いていますが、岡山から広島を見られても当然そうだと思いますし、心を開いてそういう問題についても語り合い、中・四国の発展の為に、岡山と広島がともに歩んで行くべきだと最近痛感しております。

様本：ありがとうございます。九州の石井さんお願いします。

14. 福岡の中核性向上と都市リンケージの促進

石井：先程チョンガーかというご質問がありましたが、私は札幌・広島・福岡のときも年間の大部分は女房が付いてきまして、女房も居心地がいいものですから、くっついてきます。そういう都市になっていかなければならないと思います。その代わり東京に残した子供がチョンガーになってしまいますが。

次の問題は地方分散と地域内の集中という事なのですが、先程の諸井さんのご説と同じような感じになります。ブロック内の中枢都市の強化というものが、東京への流出というものを抑制するし、それがブロック内の一極集中と非常に裏腹を成しています。中枢機能というのは行政とか交通のような機能と、それから経済のようなものと、それから最近では魅力度みたいな、そういうものの強化が中枢機能の強化ではないかと思えます。九州7県全体から外へ出ていった人は、4～5年前までは大体年間4万人位の社会減であったのですが、平成3年度頃になると半分位になっています。ところが福岡県は、出はいり差し引いて最初は7千人位減だったのが最近では8～9千人位増えています。要するに九州からの流出抑制と九州内での福岡集中とが同時に起こっているということです。これは一種のダム効果でこのところ交通などが発達して、福岡の拠点性が高まったせいではないかと思えます。そこでブロックの中で、福岡に対する軌轢というものはもちろんあるんですが、ピラミッドと同じように、福岡が大きく成長する時に全体が成長するような事をしなければならない。そのためにはブロックの中の各都市が個性ある発展、たとえば一流の物を作るとか、あるいは一流の人的集団を持ってくるとか、そういう事が必要なの一つです。それから最近言っているのですが、都市リンケージというものをもっとやるべきではないかという事です。

今、新国土軸の議論がありますが、軸議論というのはスローガンとしてはいいと思うのですが、なかなか一朝一夕には難しいんです。ですからそれよりも隣り合わせの都市が一緒に何かやって行くという事が大事だと思います。ところが、自治体の壁がありますから、これがなかなか難しいんです。むしろ経済界とか学界とかが、そういう所は境界を乗り越えて動けますから行動するという事が必要だと思います。福岡は先程申したように、福岡の周辺に沢山都市があるものですから、福岡市が音頭を取って一緒にやて行こうという動きは出ていますが、なかなか福岡市と北九州市で何かやろうという動きはないんですね。最近では福北懇談会というのを、両方の経済界で集まって一緒になっ

て何かをやろうという動きがあります。そういう都市リンケージというものが必要だと思っています。それから3番目には、域内の交通体系を整備していく事が非常に大事ではないかと思っています。

九州は先程も申し上げたように、従来の素材形産業や食料基地の他に自動車産業とか観光とかアジアをキーテーマに、とにかく一体になってやろうとしています。その手始めとして、福岡と北九州が是非がっちり組んでいく必要があります。福岡県は大体480万位ありますが、福岡県は人口密度が非常に多く1000人弱位ですから、物凄く人口が集積しているという事なんです。ですから東京・大阪・名古屋につぐ第4ブロックみたいなものが組めるのではないかという事です。そして環黄海とか環東シナ海とかそういう方を睨んで、あまり東京の方ばかり向かないでやろうではないかという事です。また今度広島博多間にのぞみが開通しまして1時間8分で繋がりましたし、是非これからもう少しリンケージをやっていったらいいのではないと思うわけです。来年はアジア大会がありますし、再来年は福岡でユニバーシアードもありますし、是非そんな事から交流をしてお互いに応援しあう事もいいのではと思っています。経済地域としてみてもこの広島から九州あたりにかけて自動車産業が相当分布しています。

15. 国鉄の分割民営化と地域の活性化

石井：それから最後にもう一つ、国鉄がJ Rになって民営になりましたが、私はこれは分割して非常に良かったと思っています。これから地方分権とか道州制とかが議論がされていきますが、国鉄の分割民営化というのは鉄道という分野だけでも、一つの先行実施例ではないかと思うんです。どんな事が良くなったかと言うと、地域の活性化に繋がります。昔は全部丸の内の本社で計画をやっていたから、九州には特急はお古しか絶対来ませんでした。東京の方で10年位走ってくたびれたのが来るんです。だから民間になったらいち早く新車両を入れましたし、とにかく丸の内に一々相談しても時間が掛かっていましたから、今は九州で知事に相談して即決でいろんな事をやります。都市計画との整合性もスムーズにいきますし、新駅もどんどん作っています。それから国鉄というのは馬鹿でかい組織でしたから、中央を頂点とする縦割り組織なんです。要するに国鉄の中に系統別の会社があるような感じでして、運転系統とか土木系統とか軸系統とか営業系統とか、それが鉄道管理局にどんどん仕事の指示をやってきますから、総合的な価値判断というものが地方でできないですね。それが今度は分割会社になりましたから、そこでとにかく一番いい事を、系統とか言っておられませんから、そういう点で縦割りシステムを排除できたのは非常に良かったと思います。勿論問題点もないわけではありませんが、鉄道はわりと地域にクローズした輸送ですからあまり問題もないし、情報も外国の情報を貰わなくても地域でクローズしていますから、そういう点はいいのではないかと思います。

それから財政的な基盤ですが、先程からいろいろ出ているように、富が全部東京に集まるようになっていきます。それから鉄道の儲かる所も東京なんです。ですから旅客会社を6つに分けたんですが、とにかく東京や大阪などを基盤にしている所は、黒字基調なんです。ですからそこは国鉄時代の過去債務、つまり借金を分相応に割り当てたという事です。それから3島会社（九州、北海道、四国）は完全に赤字基調です。ですから経営安定基金というのを作って貰いました。それも鉄道の営業収支で額が違うんです。そういうもので調整して、6会社とも大体売上の1%位の黒字会社になるようにして、用意ドンでスタートしたわけです。その後いろんな事、たとえば金利が下がって基金運用に苦勞しているとかありますが、このような財政調整が考えるべき問題点だろうと思います。

それから民営になって、意識改革といいますか、人材の問題が大きなテーマです。幹部の人は中央から本社にいた人間を配置しますが、仕事をする部隊の大部分は、かつて国鉄時代は本社の言うとおりの真面目に仕事をやればいいという事でしたから、自分達で企画立案するというような発想とかやり方というのはあまり習熟していないという事です。この点ソフト面では最大の問題点として力を入れてきました。ですからこれから地方分権とか言う時には、一つは財政的な問題です。当初うまい仕組みを作って、九州を独立させても九州の中だけのGNPみたいなので食べていけと言っても難しいわけですから、支援のシステムを少なくともかなり長い期間やるような事が必要だと思います。それから多分鉄道と違って地方での情報の収集の問題というのは絶対あると思います。そして人材とか意識の問題、つまり自立・自活のマインドや企画力、そういうものは上だけ号令を掛けても駄目ですから、全体がそういうパワーを出さなければいけないので、地方分権とか道州制をやった時に、相当しっかり考えていかなければならない問題になるのではないかと思います。

樺本：ありがとうございます。北海道の場合もＪＲ北海道で一つに纏まっているわけですね。ところがＪＲ東日本とＪＲ西日本は、それぞれ片方が東京、片方が大阪を核にしているわけで、特に中国地方の場合ですとＪＲ西日本の一部ですし、ＪＲ西日本は関西でもうけていますから、中国5県の人々がこうして欲しいといっても大阪本社は何とも言うことを聞いてくれない。財政的な問題はもちろん大きなことで、もしそれさえ解決ができれば、将来ＪＲ西日本の分割ということは考えられないものではないでしょうか。石井さんいかがですか。

石井：私は例えば広島の中核機能を議論する時に、バックボーンとなる中国・四国というアンデンティティが希薄なんです。そこが強化されてくると、いろんな仕事の仕組みもそういうふうにくローズしてくるのではないかなと思います。そうすると広島地域本社などを作る可能性もあるのではないのでしょうか。東北は仙台に、支社では

なくＪＲ東日本の東北本社というのを置いています。ですからそういう事があるんだろうと思います。

樺本：そうですか。仙台にかなり権限が移っているわけですね。

藤崎：ちょっといいですか。石井さんのご発言の東北本社の問題ですが、これは先程申しました日本鉄道というのが、東北線の一番最初の鉄道会社でございまして、これがあったものですからそれが明治38年に鉄道院に買収されて国鉄になります。そういう経緯があったので、いや東北線というのはこっちの方が先なんだと、これは民間の会社でして、ずっと青森までそういう事でして、特に今の小岩井農場とか三菱の関連のものが出来たのも、その日本鉄道の工事に関係しての事なんです。そんな事がありまして、東京本社ではなく仙台に本社を置けという事でいろいろやりまして、そこで東北本社というのを別にして、東北本社長という形で常務取締役がいるわけです。

樺本：そうですか。仙台はやはりやられたのですね。中国地方は今から言わなければならぬと思います。ありがとうございました。

森本：ちょっといいですか。言い忘れたのですが、中・四国が一体となってという話で思い出したのですが、その為には広島がしっかりしなければいけないという事は、皆さんもご異議がないと思います。広島を目指す都市像が、国際平和文化都市だという事で、これは広島市の最高目標なんです。しかし、アイデンティティとしてはやや曖昧なわけです。確かにこの言葉の持つ意味は崇高なものです。国際平和文化都市というものを否定するものではございませんが、新しいコンセプトを作って、世界に向けて発信し掲げて行こうという平岡市長の発想で、検討がなされています。確か広島新世紀ビジョン委員会だったと思いますが、私も経済同友会の一員として末席を汚しております。近日中に纏めて、一つの新しい広島のコンセプトを市長が持っておられる事を付け加えておきます。

樺本：ありがとうございます。諸井さん何かご感想はありますか。

16. 地方分権と地方中枢都市の役割

諸井：樺本さんの方針に従って、石黒さんが大分議論の種を出していただいています。私も先程の石黒さんのお話を伺ってなるほどと思いました。確かに今の法人税が、どのくらいの配分になっているか、要するに地方の働きを吸い上げている部分が、法人税の中にどのくらいあるのかというのは、私もちょっと資料がありませんから分かりま

せん。只、法人税は全体の中の一部で、地方交付税以外にも補助金とか公共投資の配分等があるわけです。そうすると例えば、北海道が道として独立をして、先程石黒さんがおっしゃった事を全部やったとして、果して中央からの投資あるいは交付金あるいは補助を全部断ち切って、どういう計算になるかなとちょっと疑問を感じるところもあるわけです。それはそれでいいのですが、大きな問題は、住民自治というのが一番基にあって、いろんな政策というのが、できるだけ住民自治からスタートしているのがいいんだという考え方は正しいと思います。

そういう意味ではなるべく地方に分権をしていかなければならないという事なんだと思います。

只、大前研一さんなどが言っているような道州制の考え方というのは、道州にそれぞれ政府ができて、そこが主権を持つというような形です。それで国家機関というものは、防衛とか外交とか非常に限られたものだけやればよろしいと。地方が主権を持って、例えば教育文化にしても、それぞれの地方でそれぞれの地方の考え方によってやるんであると。法律もそれぞれの地方で決めるんだという考え方があります。そういう説があるし、現にドイツなどもややそういうような恰好になっていますから、それが間違っているというわけではありませんが、日本の場合に果して日本の今までの歴史とか、日本の面積とか人口とかあるいは現在の経済の格差の状況とかいろんなものを考えて、少なくとも現時点でそういう方向を取るのが正しいのかどうかという点は、私はちょっと疑問に感じるわけです。日本の場合は明治維新以来官僚国家で、中央の官僚がほとんど日本というものを運営してきました。それは今日に至るまでそういうところが実際問題としてあると思います。そして中央の権限がどんどん肥大化して、先程からいろいろお話に出ているように、細かい事でも全部中央で決めるとか、あるいは口を出すという事。その事が非常にまずいので、なるべくそれを地方に分けていった方がいいよという事。この方向は間違っていないと思います。それではドイツのような州政府の主権というように、要するに日本という国を幾つかの国に分けるというような考え方、これがいいかどうかというのは少なくとも私は現時点ではちょっと疑問ではないかという感じがいたします。

それから先程石黒さんの議論で、札幌が東京のおこぼれみたいになっているのは、結局支店長都市だからというお話でした。それではそうやって道の主権というか、道の自治というものを確立した場合に、では一体札幌というのはどういうふうになっていくのかなと思います。その時に皆さんが先程から言っておられる、恨み、つらみ、妬みという話は一体どういう事になるのかという事です。多分私は、中枢都市というのも現状では樺本先生がおっしゃるようになんかなりはっきりしていて、これも中枢都市であれも中枢



諸井 虔氏

都市だというのはおかしいではないかという提案も全く同感なんです。只いつまでもブロックの中で、自分が突出した中枢であるという事を頑張っていくと、結局東京と同じ事になってしまうのではないのか。だからブロックの中で中核都市や拠点都市が競争しながら、第2の中核都市が育ってくるというような形を考えながらやっていく。あるいはその中核都市というものが、自分の所だけがよいという話ではなくて、中核都市の良さというものを、周りに全部分けていくような形。周りがやっぱりあそこの中核都市があるからいいんだよと、恨みつらみ妬みではなくて、そういう恰好になっていくと地域というのは発展するのではないかと、そんな感想を持ちました。

樺本：ご反論があると思いますが、ちょっと短くお願いします。

17. 中央集権の進行と行政改革

石黒：おっしゃるようにいっぺんに分けてしまうと大変難しい問題があると思います。しかし逆に言えば、昭和20何年から中央行政から地方行政についての、例えば「神戸（かんべ）報告」があり、昭和30何年の佐藤喜一郎の第1次臨調の方針があり、土光報告があって、40年たっても地方分権にはなっていないですね。間違いなく東京一極集中になっているのであれば、やはりこのところで発想転換しなければならないのではと私は考えます。だから今度、諸井さんもお入りになって行革新を行って、あるいは細川さんもお入りになるだろうと思います。しかしその形で攻めていくと、問題点は実にはっきりしており、答申が何回も出ているけれども何にも進んでいなくて、結局中央集権が一層進んでいるという形になっているのではないだろうかという気がします。確かに石井さんがおっしゃられたように、土光さんのところで成功したのはNTTとJRだと思います。この2つだけですよね、率直に言わせてもらえば。後は益々中央集権が進んでいるというなら、中央と地方との問題は根本的に考えなければならないのではと思います。そこでおっしゃるように財政的な問題について、それでは北海道はうまく行けるのかという、こういう問題は確かにあると思います。あると思うのですが、我々が多少計算してみると、少しやはり足りないかもしれません。足りないかもしれませんが、そこは場合によっては頑張る必要があるのかもしれないという気がしています。沖縄はちょっと無理だと思いますが、他の地域について言うと、その資金配分を今言った法人税とか消費税で分割をしていき、それから過去の累積分をどう計算するか難しいですが、それをきちんと計算して行くというやり方を確立するとか。もしそういう面倒臭い事はいやだったら、過去10年間の地方交付税をそのまま据え置きにしてくださいと、そして今の地方交付税の分を過去10年間の平均割合で下さいと。今自治省とか大蔵省とかの、難しい恣意的な判断を止めて下さいと。そうすると中国いくら四国いくらという比例配分がありますよね。3税についての比例配分を10年間固定化して下さいと。そうすると一々中央に霞が関に

いなくていいですから、先生の所に行かなくていいですから、そうして下さい。そして10年経ったら、21世紀になったらまたその間に考えましょうと。私はそれでも随分違うと思います。今の地方交付税のやり方は、非常にソフィスケーティドというか、官僚の恣意に任せすぎていて、訳がわからないという事です。特に特別交付税については、どうも臭い。臭いがすると私は思っています。

樺本：ありがとうございました。どうぞ意見があれば。

石井：私が先程鉄道で申し上げた事などから考えてみると、今の税金の取り方とか制度を変えたくらいでは駄目で、既に過去に作られたいろんなハード・ソフトを含めたシステムが、東京で非常に経済効率を上げるようにできているわけです。だから今後とも権限とかあるいは税金の制度とかだけを分散しても、相当経済格差はあるのではないかと思います。国家的な見地から、新たなルールを作らないと、例えば九州のような所でも非常に苦しいのではないかなという気がします。

石黒：石井さん、私の意見だと、東京はなくなるんですよ。

石井：いや、東京の権限は無くなるかもしれないけれど、東京地域の既に現存する経済活動というものが急に消えるわけではないんです。それは私はそう思いますね。鉄道なんか、山手線なんかは絶対儲かるんですよ。

18. お嫁に行きたくなる街づくり

樺本：石黒さん宜しいでしょうか。後半のお話が特に面白くなってきました、私もちょっと感想を持ちましたので発言させていただきます。中枢機能とは一体何かという時に、私なりに中枢機能と呼ばれるものはいっぱいありますが、因みに私どものセンターの旗頭ではありませんが、産官学の連携というような事を言っていますので、産官学になぞらえると割りに分かりいいかなと思います。官は中国地方で言えば、中国・四国農政局が岡山市にございますが、それ以外の中央省庁の出先機関は皆広島市にございます。産業界は現在においては広島が中四国地方ではダントツの状況にございます。中国経済連合会の事務局も広島にあります。学というのは、大学だけではございません。もちろん、確かに福岡に学生が多いというのも事実だし、これが起爆剤になって若者が増え、マーケットが出来上がって、それがかもめ族などを呼んできていて、福岡の発展の一つの基礎になっていると思います。けれども大学だけでなく、その都市に行きたいよという、心の中核性というか、医療とか福祉とかスポーツなどもそうかもしれませんし、美術館とか博物館なども含めて、産官学の「学」の中核性で、心の中核性を示しているわけで

す。

先程の支店長族の中で、広島はチョンガーが多いというお話は、多分そうかもしれませんがですね。私はしばしば、広島市がどんな町になったらいいと思うかと言われた時には、奥さんが来たがる町になって欲しいと申し上げています。実はそれには経緯がありまして、大分昔ですが、日本計画行政学会という学会がありまして、その全国大会を広島でやりました。地域活性化というテーマで、パネル討論会を開くことになりました。それでは女性にも出席してもらおうということになりましたが、広島の周辺でそういうテーマで喋れる人を探しましたが、帯に短し、たすきに長しでさっぱり見つかりませんでした。とうとう困りまして、それでは東京にいるから東京の方をお呼びしようということで、ある有名人を候補に挙げましたが、あの当方で1時間50万円ということでした。学会ですからお金がありません。そこでお金のかからない女性をとということで、本部に頼んで当時の企画庁の独身の女性課長にお願いすることになりまして、広島駅まで迎えにいきました。その方がパネル討論会で素晴らしいことを言われた。「活力ある街とはお嫁に行きたくくなるような街である」とおっしゃいました。確かに広島県でも中山間地になると、嫁不足の所は一杯あるわけで、従ってお嫁さんが来たくくなるような街というのは、やはり大きなキャッチフレーズで、その後も随分広島で話題になりました。

只、広島市くらいになりますと、お嫁さんには来ます。ところが札幌・広島はみな支店経済ですから、支店長さん族がチョンガーでお見えになります。それが札幌だとか仙台なども最近では逆単身赴任の形で、奥さんが居て3年後位に本社勤務を命ぜられると、貴方だけ東京にお帰り下さいと、私達家族は仙台に住むよ札幌に住むよという人が増えたというのは事実です。そういう街になればいいし、広島の場合は奥さんが来たがらない街になっているというのが問題であると思います。先程のお話に触発されて申し上げた次第です。それから恨みつらみがあるような町について言われましたが、そうはいつでも恨みつらみはない方が共々発展しますし、多少そういう点では広島は他の地域よりも良いかなという感じがします。

ところで最初にお約束しましたように、フロアの方々からのご意見を賜ればと思います。お手を挙げて下さいまして、所属とお名前と、どなたにご質問かをおっしゃって下さい。

19. 質疑応答

質問A：一市民として名前は伏せさせていただきますが、諸井先生にお願いしたいと思っています。折角貴重なご忠告とも言えるご意見をいただきましたが、それでその続きという事で、中央に対抗できるような地方というのは、私どもから見ると最低福岡位の都市圏というものが必要であろうと思います。だいたい500万位の人口でそれに長崎や大分からかもめ族もやってくるという土地です。広島がどんなに踏ん張って岩国や東広島・呉

を含めても200万には足りないわけで、今日まで広島がやって来られたのは、いわゆる軍需産業の遺産としての工業集積によって栄えて来て、出稼ぎもしなくてすんでいました。ここに来まして、私は量としての中枢性というのが絶対不足していると思います。この問題は広島が工業から成熟社会に進むに従って、どちらかといいますと人口のダムの役割も危うくなってきていると思います。最近の2年間を見ても、人口の社会増がなくなってきていて、中国地方四国地方で生まれた人が外に出て行って自然減になっています。だからこれほどのいい場所にありながら過疎化がどんどん進んでいます。よほど広島が踏ん張らなければ、例え国土軸とか都市間協力とか言っても、そういうメカニズムにはなっていないと思います。広島がここで盛り返さない限りは、この中・四国というのはわが国における最も過疎地帯になっていくと思います。そこで量としての都市の役割ですが、質としての役割はいろいろございまして、あまり都市を考えた地方作りというのはされて来ていません。たとえばインフラ一つにしても、わずか30キロの所でもどんどん過疎化している所が多いですね。それから絶対的人口が増えないし、工業の拡大もないという時代に、工業団地を作っても果して拡大するのかと。観光があると言われるかもしれませんが、観光都市というのは成長都市に繋がりにくいということで、奈良などのようにいつまでたっても同じですね。雑踏のような観光客が引いた後は寂しいものです。あそこは大阪のベッドタウンとしてむしろ拡大している程度で、観光都市というのは経済効果とか様々な見方はありますが、あまり成長都市には繋がりません。そういう事で実際にこれから都市が拡大するかという疑問であると思います。そこで質という問題になると、先程諸井さんが言われたように、コミュニティの問題については申されなかったのではないかと思います。都市におけるまた別のコミュニティ、即ち砂つぶのような大衆社会、束縛から離れて自由に行動し、有期的にダイナミズムを発揮していく、そういう自由で創造的な社会が地方にない限りは、どんなに官庁の分配をやったり道路を付けたところで、やはり根づかないのではないかと思います。その点がお聞きできればと思います。

樺本：ちょっと付け加えますと、自然増はしております。それから社会減は、この4市で国勢調査によると社会減になっているのは広島市だけだと国土庁は言っておりますが、これは広島市内は確かにそうですが、廿日市市などの広島ベッドタウンを入れていませんので社会減になっているわけで、従って周辺のベッドタウンの市を入れますと社会増なんです。狭い意味で、国土庁は市をいうものですから、ちょっと間違った表現になっていますので、ちょっと修正させていただいて、諸井さん何かお答えがありましたらお願いします。

諸井：ご質問のご主旨がはっきりしなかったのですが、広島はやはりいろんな意味で、これから人口が増えて拡大して、福岡のような中枢都市になる可能性が少ないのではな

いかというようなお話ではなかったかと思います。それは確かに地理的にどうしてもそういう事であれば、中・四国地方というのはやはり二つ目玉・三つ目玉・四つ目玉で考えて、先程申し上げたようにいろんな都市間の連携で、そういう中枢機能というものを補填していくという方向しかないのではないかと。そうでないと多分大阪が中・四国は俺が見るから心配するなという事になるのではないかという感じがするわけです。コミュニティが大事だと申し上げた事については、自由で創造的な事がなければ中枢都市としての発展がないのではないかというご質問ではなかったかと思いますが、よく分からなかったのですが、ですからもちろん若い人が東京に行ってしまうのが問題で、それをくい止めるには若い人が住みやすい町を、少なくとも中枢都市で作らないといけないという事で、そこではやはり自由で創造的な若い人の活動が、積極的にできるような恰好にしていかなければならないとは思いますが、それとコミュニティを作っていくという話とは、両方とも並立してできる事だし、また作っていかなくてはならないと思います。東京ではなかなかコミュニティはできないわけで、地方の中枢都市ではそれが可能であろうと申しあげたつもりです。

榎本：ありがとうございます。もう一人どなたかいらっしゃいますか。どうぞ簡単をお願いします。

質問B：市会議員をしている者ですが、自民党の前本です。市民の皆さんあるいは県民の皆さんのご要望を纏めて、地方の行政を通して国に要望して、夢が叶うまでだいたい10年かかります。これを何とか、諸井先生に行政改革に引っかけてやっていただきたいと思います。幹線道路一本作るのに、だいたい20年位かかります。都市開発をするのに10年、ディベロッパーの人に区画整理組合に行って欲しいというと、もう出世の道から外れたと言われます。都市開発に廻されると、これも出世から遅れたと言われます。これは何故かという、なんでもかんでも権限を中央が持っているからです。これはやはり地方に下ろして頂きたいし、一緒にお金も下ろして貰いたいと思います。そういうふうに国全体を持っていていただきたい。もう一つはこれは自分の反省ですが、私は商売をしていて議員になりまして、これはもう何十年かしたら日本は潰れるなと思いました。日本は何百年のスパンで行政主導型で今日を築いたと思います。しかしこれは何百年の間で、今度は行政に潰されますよ。これはやはり地方がブロックがという問題ではなしに、日本全体が潰れると思いますから、先ず行政から、議員はもう3分の1でいいと思います。行政の官庁の役人も3分の1位でいいのではないのでしょうか。商売の目で見るとそう思いますので、一つ何かの機会に諸井会長に出していただきたいと思います。それを要望して、ご返答はなくてもいいです。

20. まとめ

櫛本：それでは最後にパネラーの方に一言ずつ、今日の感想を含めましてご発言いただきたいと思います。まず石黒さんお願いします。

石黒：ある人が町づくりというのは、美しくて、優しくて、面白い町にしないと伸びないと言っていました。今日はちょっと優しさという点の問題が足りなかったような感じがします。しかし櫛本さんが言われたように、やはり女性にもてる町にしなければいけないと思います。これは札幌の反省も含めて美しい町、広島は美しい町です。しかし優しさあるいは面白さという点について努力されると、もっと楽しい町になると思います。これは札幌の町の反省を含めてそう申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

櫛本：藤崎さんお願いします。

藤崎：お話を伺っていて、やはりこういうシンポジウムがだんだん行われて来るようになったという事は、やはり全体的に国民の基本的認識が変わってきている証拠だろうと思います。ある方が、今揺らぎの時代に入っている、全てが揺らいでいるという事をおっしゃっていました。今まではこれだと、例えば中央の官庁にしても、これはいつの時代からか、今の権限が少し変わるだろうという事を考えているだろうと思います。これは諸井会長がよくご存じだと思いますが、今がやはりそういう意味においては、切替えの大チャンスであって、今やらないととても今までの積み上げたものを崩すなどという時期はなかなか来ないと思います。ちょうど政権も代わりましたし、それがいいとか悪いとかという問題よりも、そういう時代になったという事をつくづく痛感しております。以上です。

櫛本：ありがとうございます。森本さんお願いします。

森本：ちょっぴり本音の話をしたいと思いますが、昨年の8月に福山市が3市6町で地方拠点都市に指定されました。島根県の出雲が第1号で、ドーム球場がそれによって出来たと聞き及んでいますが、そういった都市を全国に50～80カ所今から作っていくわけで、これはその県で2～3番目の都市を中心に指定されるそうです。

これと同様に、是非ともこの中国地方の広島が地方中枢都市としてもっと発展する為に、その育成法というような法律が必要だと思います。これは札幌・広島が地方のリーダーとしての役割を担う中枢管理機能都市として成長するための法律と言えましようか。広島は、アジア大会に向けて財政的にも非常に厳しい状況にあるわけで、そういう法律が

できる事を国に提言したいと思います。

樺本：そうですね、ありがとうございます。もちろんここで4市で意志統一をするという状況までいきませんので、そういう状況にだんだん行けばというふうに思います。では石井さんお願いいたします。

石井：戦後今日までは札幌・仙台・広島というの、東京を中心とした3大都市圏に比べると、ちょっと羽振りが悪くて寂しい思いをしてきたかと思いますが、しかし逆に言いますと、東京的にいろいろな意味で汚染されないで、町もきれいだし住みやすいしけっこう楽しいという、素地が残ってきました。これは大変ハッピーな事で、今、新しい時代に行こうとする時、むしろそれを大事に育てて札幌・仙台・広島が地域ブロックも一緒になって、世界に誇れる美しい住みやすい中枢都市にしようという所に来ているのではないかと思います。

樺本：諸井さん最後をお願いします。

諸井：私の先程の発言で誤解を受けたかもしれませんが、私は基本的に日本の中央集権が肥大になりすぎていると、行政主導になりすぎていると、それでこの今のチャンスに、まず行政に対する政治の主体性というのを確立すべきであると考えます。国民の付託を受けて政治というものが方針を定めて、その方針に添って行政が施策を行っていくという体制に切り換えるという事。それからやはり国から地方へ、官から民へという権限の委譲をやって、もっとうんとスリムになるという事。そして3番目には、省庁が縦割りですべて自分の権限をどこまでも肥大化していこうとしている、この縦割りというものをやはり排除して行くという事。これは今やらないと将来永久にチャンスはないのではないかと、また今やらないと日本は減びてしまうと、これは非常に大事なポイントだと思います。ただそれと地方主権という問題とは、ちょっと異質の事であるという事を、先程申し上げたつもりです。何れにしても、大変いいお話をいろいろ伺いできて勉強になりました。問題はやはり中枢都市というものが、具体的にどのような形とか中身を備えていったらいいのだろうか、これはそれぞれ個性のある問題ですが、そういうお話がだんだん展開してまいりますと、非常によろしいのではないかと感じがします。どうもありがとうございました。

樺本：そうですね。私は一極二極四極ということを申し上げております。一極とは東京でございます。やはり東京がしっかりしてくれないと日本全体がつぶれます。二極は大阪と名古屋です。ここもまたしっかりしなければ駄目でございます。四極というのはまさに札幌・仙台・広島で、合計して七極になります。少なくともこの七極位がしっかりしなければ

ばいけないし、この七極でわが国全体の地方が拠点をもつことになります。更には、その発展があつてまた50万都市、60万都市あたりの発展が、またその次に続いてくるのだと思います。少なくとも一極二極まででいいというわけにはいかないので、次の四極がこれら一極二極と連携をしながら、発展することが、わが国にとって重要であろうというふうに思います。

本日は諸井会長さんに基調講演をお願いし、4人の経済人の方々にお集まりいただきまして、大変いいお話を賜りました。今日のお話をまた後からじっくり聞き直して、広島とか中国地方にとって有益なお話がいっぱいありましたから、それを反芻したいと思っております。長時間にわたりまして話し合つて参りましたが、今回の我々のテーマであります、地方中枢都市の問題につきまして、何か今の話の中からヒントを得て頂ければと思うわけです。ご講演いただきました先生方、会場の皆様方どうもご協力ありがとうございました。これを持ちまして本日のシンポジウムを閉じさせていただきます。